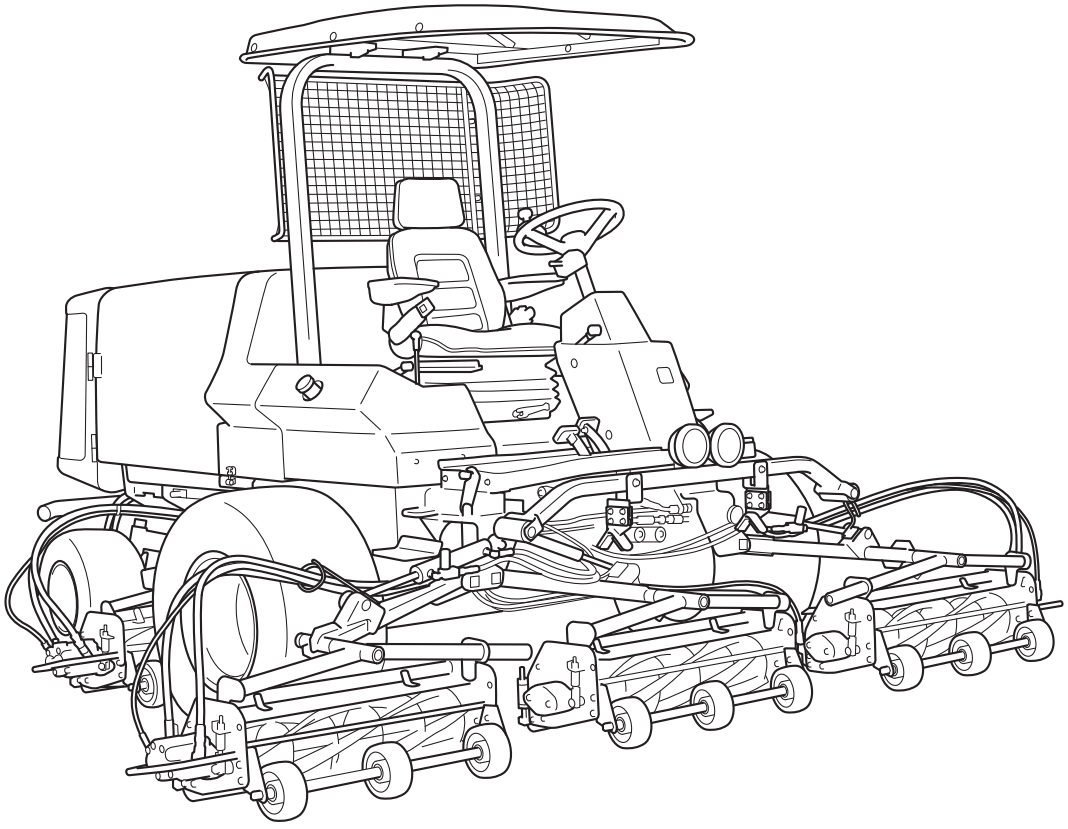
LM3200

乗用 5 連リールモア

取扱説明書



「必読」ご使用前に必ず本書をお読みください。

BARONESS®

Quality on Demand

Serial No.10001-

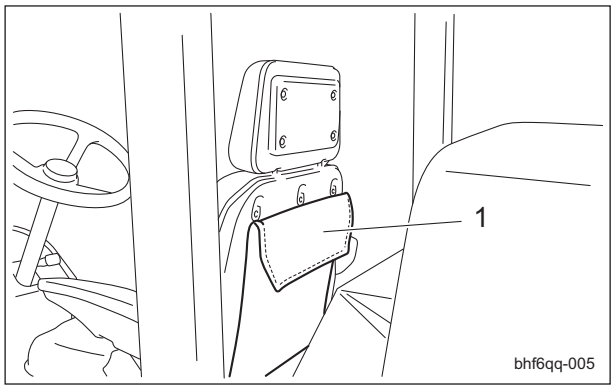
Ver.1.0

ごあいさつ

このたびは、バロネス製品をお買上げいただきまして、誠にありがとうございます。
この取扱説明書は、本機の正しい取扱方法と調整方法、また点検方法について説明しています。
機械をご使用になる前に必ず本書をお読みいただき、内容を十分にご理解の上、ご使用ください。
いつまでも優れた性能を発揮させ、安全な作業をしていただきますようお願いいたします。

取扱説明書の保管場所

この取扱説明書は､シート後のバッグにて保管してください。



取扱説明書の保管場所_001

1	バッグ

はじめに

この説明書を読んで製品の運転方法や整備方法を十分に理解し、他人に迷惑の掛からない、適切な方法でご使用ください。
この製品を適切かつ安全に使用するのはお客様の責任です。
この説明書に無い保守、整備などは決して行わないでください。
エンジン・バッテリ等の取扱説明書も必ずお読みください。
整備を行う場合は専門知識のある要員によって作業を行ってください。
整備について、また純正部品についてなど、分からないことはお気軽に弊社または、弊社代理店におたずねください。
お問合せの際には、必ず製品の型式と製造番号をお知らせください。
本機を貸与または、譲渡する場合は本機と一緒に取扱説明書をお渡しください。

株式会社　共栄社

⚠ 注意

本書記載事項は、改良のため予告なしに変更する場合があります。
部品交換を行う場合は、必ず「BARONESS 純正部品」または「弊社指定部品」を使用してください。
純正部品以外の部品を使用して生じた不具合については責任を負いかねます。

危険警告記号の説明

本書では安全に関する重要な取扱い上の注意事項について、危険警告記号を使用し、次のように表示しています。

696cq5-001	危険警告記号

この記号は「危険」「警告」「注意」に関する項目を意味します。
いずれも安全確保のための重要事項が記載してありますので、注意してお読みいただき、十分理解してから作業を行ってください。
これらを遵守されない場合、事故につながる恐れがあります。

⚠ 危険

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示しています。

⚠ 警告

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示しています。

⚠ 注意

その警告に従わなかった場合、ケガを負う恐れのある、または物的損傷の発生が予測されるものを示しています。

重要

製品の構造などの注意点を示しています。

はじめに

使用目的

本機は、ゴルフ場の芝草刈り作業を目的とした機械です。
この目的以外で使用したり、機械の改造をしないでください。
本機をその他の目的で使用したり、改造すると大変危険であり、機械を損傷する原因にもなります。
また、本機は特殊自動車の型式認定を取得していませんので、一般道路は走行できません。

目次

安全.....Page 1-1

安全上の注意事項..... Page 1-2

廃棄.....Page 2-1

廃棄処分..... Page 2-2

製品概要.....Page 3-1

仕様.....Page 3-2
各部の名称.....Page 3-3
警告ラベルと指示ラベル..... Page 3-5

取扱説明.....Page 4-1

使用前の点検..... Page 4-2
締付トルク .....Page 4-15
使用前の調整..... Page 4-19
エンジン始動・停止方法..... Page 4-22
各部の操作方法.....Page 4-24
各部の計器.....Page 4-34
移動.....Page 4-36
刈込み..... Page 4-37
運搬.....Page 4-38

メンテナンス..... Page 5-1

メンテナンス上の注意.....Page 5-2
メンテナンススケジュール.....Page 5-3
ジャッキアップ.....Page 5-5
グリースアップ.....Page 5-6
メンテナンス・モア..... Page 5-12
メンテナンス・本体..... Page 5-14
長期保管..... Page 5-19

目次

安全上の注意事項.....Page 1-2

トレーニング.....Page 1-2
運転の前に.....Page 1-2
運転操作.....Page 1-3
保守と保管.....Page 1-4

誤使用や整備不良は負傷や死亡事故につながります。

⚠ 危険

本機は、安全な取扱いができるように設計されており、工場出荷時には十分な試運転、検査を重ねた上で出荷しております。
事故防止のための安全装置は装備しておりますが、これらは適切な操作、取扱い、及び日常の管理方法が大きく影響します。
機械を適切に使用または管理しない場合、人身事故につながる恐れがあります。
以下の安全指示に従い、安全な作業を行ってください。

安全上の注意事項

以下の注意事項は、CEN 規格 EN836:1997, 国際規格 ISO5395:1990 および米国規格 ANSI B71.4 - 2004 より指示されているものを含んでいます。

トレーニング

1. 取扱説明書や関連する機器の説明書をよくお読みください。
   各部の操作方法や警告ラベル、本機の正しい使用方法に十分慣れておきましょう。
2. オペレータ、整備士が日本語を読めない場合には、オーナーの責任において、このマニュアルの内容を十分に説明してください。
3. すべてのオペレータ、整備士に適切なトレーニングを行ってください。
   トレーニングはオーナーの責任です。
   特に以下の点についての十分な指導が必要です。
   〔1〕乗用機械を取扱うときは注意と集中が必要である。
   〔2〕斜面で機体が滑り始めるとブレーキで制御することは非常に難しくなる。
   斜面で制御不能となる主な原因：
   - タイヤのグリップ不足
   - 速度の出しすぎ
   - 不適切なブレーキ操作
   - 不適当な機種選定
   - 地表条件（凸凹、凍結、ぬかるみ）特に傾斜角度を正しく把握していない場合
   - 不適切な連結と重量分配
4. 子供（18 才未満）や正しい運転知識のない方には機械を操作させないでください。
   地域によっては機械のオペレータに年齢制限を設けていることがありますのでご注意ください。
5. オーナーやオペレータは自分自身や他の安全に責任があり、オーナーやオペレータの注意によって事故を防止することができます。
6. 人身事故や器物損壊などについてはオーナー、オペレータ、整備士が責任を負うものであることを忘れないでください。

運転の前に

1. 作業場所を良く観察し、安全かつ適切に作業するには、どのようなアクセサリやアタッチメントが必要かを判断してください。メーカーが認めた以外のアクセサリやアタッチメントを使用しないでください。
2. 作業には安全靴と長ズボン、ヘルメット、保護メガネ、および聴覚保護具（イヤーマフ）を着用してください。長い髪、だぶついた衣服、装飾品などは可動部に巻込まれる危険があります。また、裸足やサンダルで機械を運転しないでください。
3. 機械が使われる区域を点検し、小石、玩具、および針金のような、機械がはね飛ばす可能性のあるすべての物体を取除いてください。
4. 燃料の取扱いには十分注意してください。

⚠ 警告

燃料は引火性が高いので、以下の注意を必ず守ってください。

〔1〕燃料は専用の容器に保管する。
〔2〕給油はエンジンを始動する前に行う。エンジンの運転中やエンジンが熱い時に燃料タンクのフタを開けたり給油したりしない。
〔3〕給油は必ず屋外で行い、給油中は火気厳禁とする。
喫煙しない。
〔4〕燃料がこぼれたらエンジンを始動せずに、機械を別の場所に動かし、気化した燃料ガスが十分に拡散するまで引火の原因となるものを近づけない。
〔5〕燃料タンクや燃料容器のフタは確実に閉める。

5. 運転操作装置（ハンドル、ペダル、レバー等）、安全装置、防護カバーが正しく取付けられ、正しく機能しているか点検してください。これらが正しく機能しない時には作業を行わないでください。
6. ブレーキの効きが悪かったり、ハンドルに著しいガタがある場合は、必ず調整、修理してから使用してください。
7. マフラが破損したら必ず交換してください。

運転操作

1. 有毒な一酸化炭素ガスが溜まる可能性のある閉め切った場所では、エンジンを作動しないでください。
2. 十分に明るい場所でのみ運転し、穴や、隠れた危険を避けるようにしてください。
3. エンジンを始動する前に作業部への駆動をすべて遮断し、走行シフトをニュートラルにして、駐車ブレーキを掛けてください。
   運転席に着座してエンジンを始動してください。
   シートベルトがある場合は着用してください。
4. 「安全な斜面」はありません。
   芝生の斜面での作業には特に注意が必要です。
   転倒を防ぐために
   〔1〕斜面では急停止、急発進しない。
   〔2〕走行クラッチがある機械はクラッチをゆっくりつなぐようにしてください。
   また坂を下る場合は、走行ギヤを入れた状態にする。
   〔3〕斜面の走行や旋回は低速で行う。
   〔4〕凸凹や穴、隠れた障害物がないか常に注意する。
   〔5〕斜面を横切りながらの作業は、そのような作業のために設計された機械以外では絶対に行わない。
   〔6〕決められた角度以上の傾斜地または転倒やスリップの危険がある場所では、絶対に作業を行わない。
5. ガードが破損したり、正しく取付けられていない状態のままで運転しないでください。
   インターロック装置は絶対に取外さないでください。
   正しく調整した状態で使用してください。
6. エンジンのガバナの設定を変えたり、エンジンの回転速度を上げすぎたりしないでください。
   エンジンを規定以上の速度で運転すると、人身事故を起こす危険が増大します。
7. 運転位置を離れる場合は次を厳守してください。
   〔1〕平らな場所に停止する。
   〔2〕作業部の動力を遮断し、作業部を下げる。
   〔3〕走行シフトをニュートラルにして、駐車ブレーキを掛ける。
   〔4〕エンジンを止め、キーを抜き取る。
8. 以下のような状況になった場合には、アタッチメントの駆動を停止し、エンジンを止め、キーを抜き取ってください。
   〔1〕燃料を補給するとき。
   〔2〕グラスキャッチャを取外すとき
   〔3〕刈高を調整するとき。
   ただし運転位置から遠隔操作で行える場合は除きます。
   〔4〕詰まりを取除くとき。
   〔5〕機械の点検、清掃、整備作業等をするとき。
   〔6〕機械に異物がぶつかったり、異常な振動を感じたとき。
   機械を再始動する前に機械の損傷を点検・修理してください。
9. 作業部や回転部に手足を近づけないでください。
10. バックするときは、下方と後方の安全に十分注意してください。
11. オペレータ以外の人を乗せないでください。
12. 周囲に人がいるとき、特に子供やペットがいるときは、絶対に作業を行わないでください。
13. 旋回するとき、管理道路やカート道、歩道を横断するときは減速し、周囲に十分注意してください。
14. 草地以外の場所では、刃の回転を停止してください。
15. 移動走行中や作業を休んでいるときは、作業機への駆動を止めてください。
16. アタッチメント等を使用する場合、排出方向等に気をつけ、人に向けないようにしてください。
    また作業中は機械に人を近づけないでください。
17. アルコールや薬物を摂取した状態で運転をしないでください。
18. 本機をトラックやトレーラに積載する場合は、十分注意してください。
    積み込み、積み下ろしは平らな安全な場所で、トラックやトレーラの駐車ブレーキを掛け、エンジンを止め、輪止めをして行ってください。
    トラックやトレーラに積載して移動する時は、本機の駐車ブレーキを掛け、エンジンを止め、強度が十分あるロープ等で機械を固定してください。
    あゆみ板を使用する場合は、巾、長さ、強度が十分あり、スリップしないものを選んでください。
19. 本機を輸送する場合は、燃料コックは閉じてください。
20. 見通しの悪い曲がり角、植え込みや立ち木などの陰では安全に十分注意してください。
21. わき見運転、手放し運転はしないでください。

22. エンジン停止中はスロットルを「LOW」（かめマーク側）にしておいてください。
燃料コックが付いている場合は、燃料コックを閉じてください。

保守と保管

1. 修理・調整・清掃作業の前には、平らな場所で機械を停止し、作業機を降ろし、駐車ブレーキを掛け、エンジンを停止し、キーを抜き取ってください。
また、機械のすべての動きが完全に停止したことを確認し作業を行ってください。
2. 機械から離れる時には必ずモアユニットを降下させておいてください。
ただしモアユニットを上昇位置に確実にロックしておくことができる場合はこの限りではありません。
3. 火災防止のため、エンジンやマフラ、バッテリ、燃料タンクの周囲、作業部の周囲、および駆動部に、余分なグリース、草や木の葉、埃などが溜まらないよう注意してください。
オイルや燃料がこぼれた場合はふきとってください。
4. 閉めきった場所に本機を保管する場合は、エンジンが十分冷えていることを確認してください。
5. 本機にシートを掛けて保管する場合は、過熱部分が十分冷めていることを確認してから行ってください。
6. 炎や火花がある屋内では、タンクに燃料が入った状態で保管しないでください。
7. 機械の保管・搬送時には、燃料コックがついている機械は、燃料コックを閉じてください。
8. 炎の近くに燃料を保管しないでください。
9. 絶対に訓練を受けていない人に機械を整備させないでください。
10. 点検・整備はマフラやエンジンが冷めてから行ってください。
11. 調整、整備等に必要な工具類は適切な管理をし、目的に合った工具を正しく使用してください。
12. 機械をジャッキアップする場合は、ジャッキスタンドなどを使用し、確実に支えてください。
13. 部品を取外すときなど、スプリングや油圧などの圧力が一気に解放される場合がありますので、注意してください。
14. 油圧機器を取外す等、油圧系統の整備をする場合は、必ず減圧してから行ってください。
15. 油圧系統のラインコネクタは十分に締っているかを確認してください。
油圧をかける前に油圧ラインの接続やホースの状態を確認してください。
16. 油圧回路のピンホール漏出やノズルの油漏れを確認する場合は、絶対に手ではなく、紙や段ボール等を使用して漏出箇所を探してください。
高圧オイルは、皮膚を突き破ることがあり、人的事故をおこす恐れがありますので、十分注意してください。
万一、油圧作動油が体内に入った場合には、この種の労働災害に経験のある施設で数時間以内に外科手術を受けないと壊疽を起こします。
17. 修理作業の前にはバッテリケーブルを取外してください。
先にマイナスケーブルを取外してからプラスケーブルを取外してください。
取付ける場合は、プラスケーブルから取付けてください。
18. 配線等が接触したり、被覆のはがれがないように注意してください。
19. リールカッターとベッドナイフの点検を行うときには、安全に十分注意してください。
〔1〕必ず手袋を着用してください。
〔2〕刃合わせ調整中は、リールカッターとベッドナイフの間に指が挟まれないように十分注意してください。
20. 複数のリールカッターを持つ機械では、1つのリールカッターを回転させると他も回転する場合がありますので注意してください。
21. 可動部に手足を近づけないでください。
エンジンが作動したままで調整作業をしないでください。
22. バッテリの充電は、火花や火気のない換気の良い場所で行ってください。
バッテリと充電器の接続や切り離しを行う場合は、充電器をコンセントから抜いておいてください。
また、ゴム手袋や保護メガネ等を着用し、絶縁された工具を使用してください。
23. すべての部品が良好な状態にあるか点検を怠らないでください。
消耗したり破損した部品やラベルは安全のため早期に交換してください。
24. 常に機械全体の安全を心掛け、ナットやボルト、ねじ類が十分締まっているかを確認してください。
25. グラスキャッチャの摩耗や劣化を、こまめに点検してください。

26. 燃料タンクの清掃が必要になった場合は、屋外で作業を行ってください。

廃棄処分..... Page 2-2

廃棄処分について.....Page 2-2

廃棄

廃棄処分

廃棄処分について

整備、修理等の作業で出た廃棄物については、地域の法律に従って適切に処分してください。
（例：廃油、不凍液、バッテリ、ゴム製品、配線等）

仕様.....Page 3-2

仕様表.....Page 3-2

各部の名称.....Page 3-3

機番プレート.....Page 3-3
排ガス規制ラベル.....Page 3-4

警告ラベルと指示ラベル..... Page 3-5

警告ラベルと指示ラベルについて.....Page 3-5
警告ラベル・指示ラベル貼付位置.....Page 3-5
警告ラベル・指示ラベルの説明..... Page 3-6

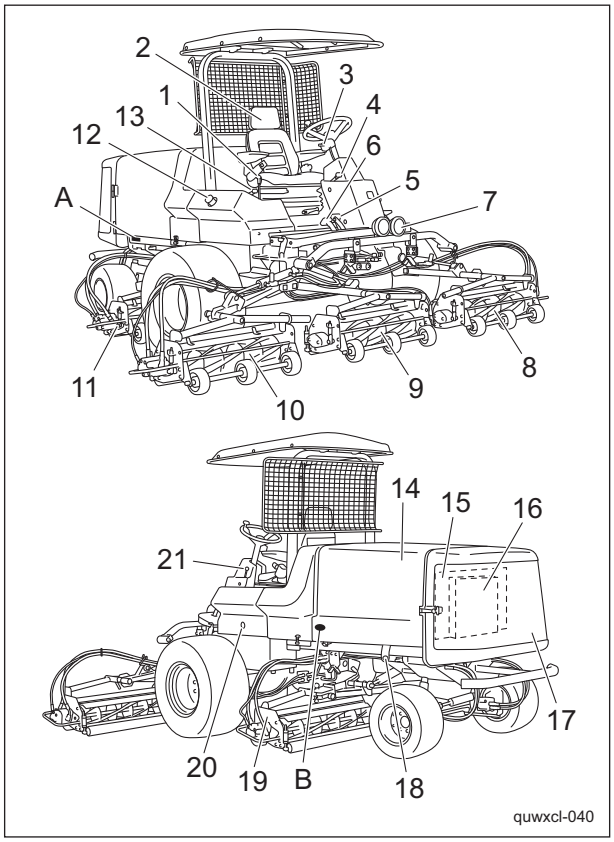
仕様

仕様表

型式			LM3200(タイプ_F)	LM3200（タイプ_R）
寸法	全長		315 cm	330 cm
	全巾	作業時	367 cm	368 cm
		移動時	235 cm	236 cm
	全高	ルーフ	228 cm	229 cm
		ハンドル	165 cm	166 cm
質量			1,876 kg	1,867 kg
最小回転半径			320 cm	
エンジン		型式	Kubota V2403-M-T	
		種類	立形水冷 4 サイクルターボチャージャー付ディーゼルエンジン	
		総排気量	2,434 cm^3（2.434 L）	
		最大出力	41.7 kW(56.7PS)/2,600 rpm	
燃料タンク容量			ディーゼル 51.0 dm^3（51.0 L）	
燃料消費率			208 g/kW・h（定格出力時）	
エンジンオイル容量			10.0 dm^3（10.0 L）	
作業巾（刈巾）			320 cm	
作業範囲（刈高）			10 - 60 mm	17 - 68 mm
駆動方式			HST 2・4 駆切替方式	
速さ（HST）		前進	2 駆 0 - 15.5 km/h　4 駆 0 - 10.0 km/h	
		後進	0 - 9.0 km/h	
速さ（メカ）			-	
能率			33,160 m^2/h（2 駆作業時：13.0 km/h x 作業巾 x 0.8）	
使用最大傾斜角度			15 度	
タイヤサイズ		前輪	31 x 13.50 - 15	31 x 15.50 - 15
		後輪	20 x 12.00 - 10	
タイヤ空気圧		前輪	140 kPa（1.4 kgf/cm^2）	
		後輪	140 kPa（1.4 kgf/cm^2）	
バッテリ			105D31R	

※ 出荷時のエンジン最高回転速度は、2,600 rpm

各部の名称

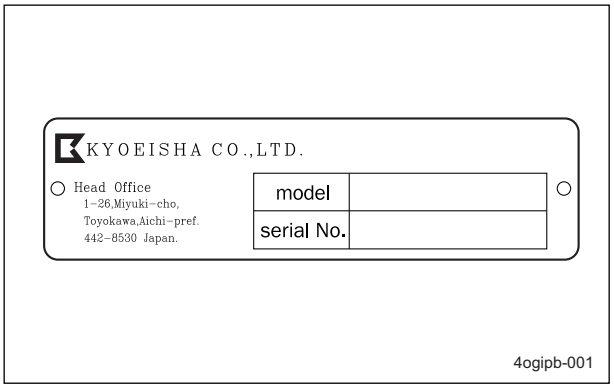


各部の名称_001

1	モアユニット昇降レバー
2	シート
3	デフロックスイッチ
4	チルトレバー
5	前進ペダル
6	後進ペダル
7	ライト
8	#5 モアユニット
9	#1 モアユニット
10	#4 モアユニット
11	#2 モアユニット
12	燃料給油口
13	スロットルレバー
14	ボンネットカバー
15	ラジエータ
16	オイルクーラ
17	ラジエータカバー
18	マフラ
19	#3 モアユニット
20	油量ゲージ
21	駐車ブレーキレバー
A	機番プレート
B	排ガス規制ラベル

機番プレート

機番プレートは、機種名と機番が記載されています。



機番プレート_001

排ガス規制ラベル

基準適合標示マークです。
規制適用日以降に製作又は輸入された特定特殊自動車は、基準適合表示等が付されたものでなければ国内で使用できません。

排ガス規制ラベル_001

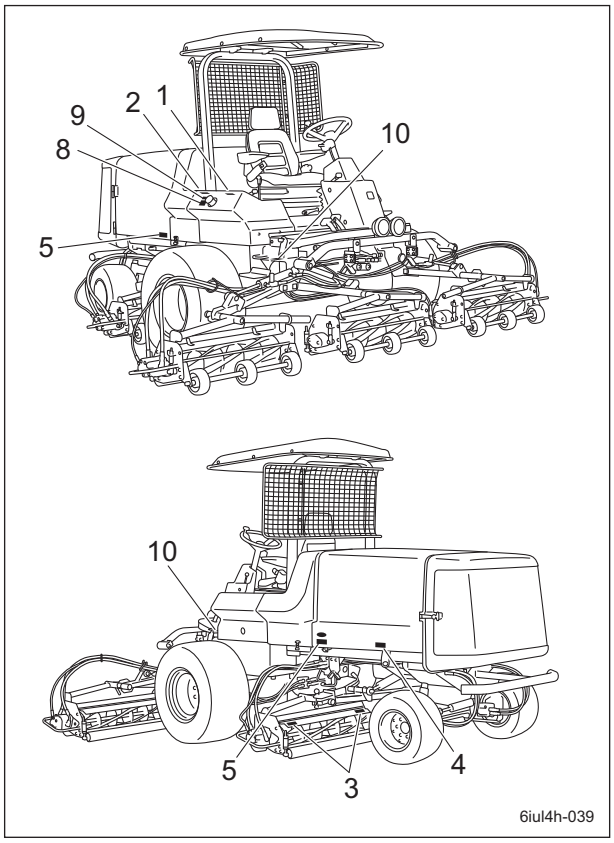
警告ラベルと指示ラベル

警告ラベルと指示ラベルについて

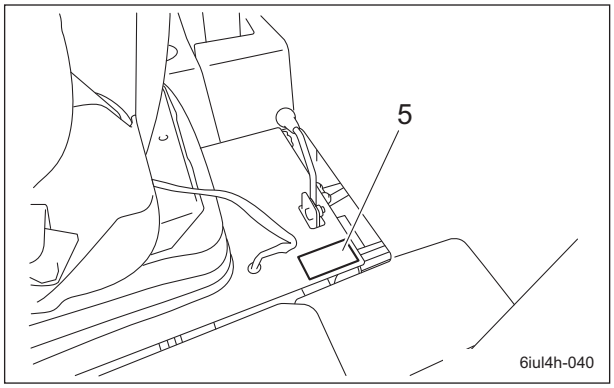
> ⚠ 警告
>
> **本機には、警告ラベルと指示ラベルが貼付けられています。**
> **ラベルはきれいに保ち、損傷や汚れ、剥がれがあった場合は、新しいものと交換してください。**

交換するラベルの部品番号は、パーツカタログに記載されております。
購入販売店または弊社に注文してください。

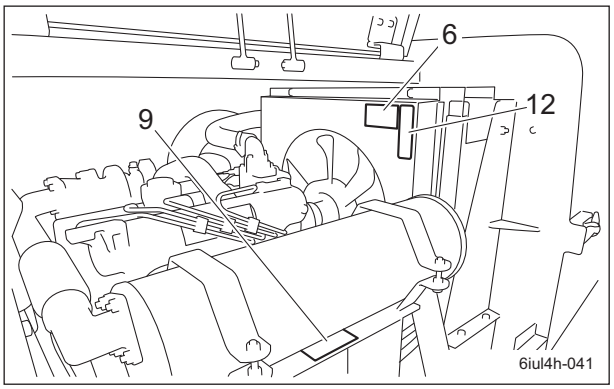
警告ラベル・指示ラベル貼付位置



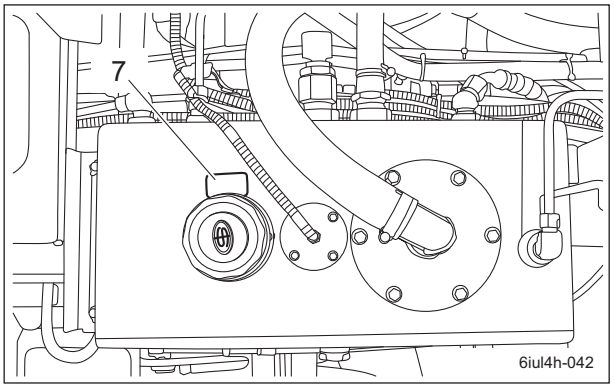
警告ラベル・指示ラベル貼付位置_001



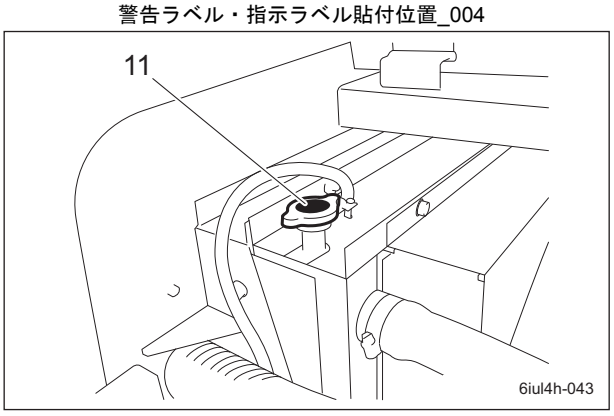
警告ラベル・指示ラベル貼付位置_002



警告ラベル・指示ラベル貼付位置_003

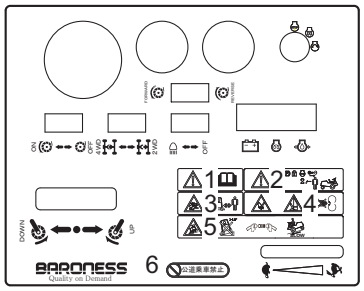
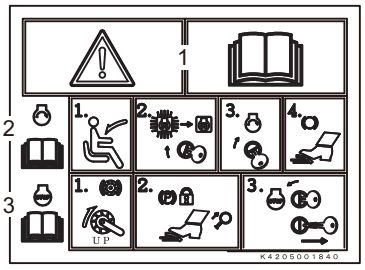


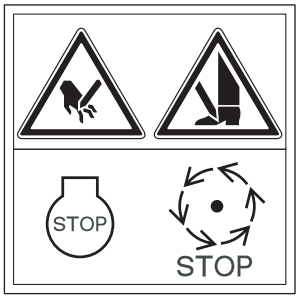
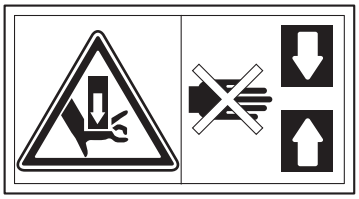
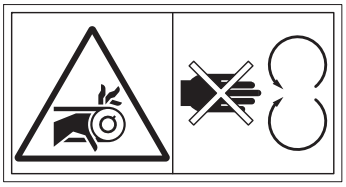
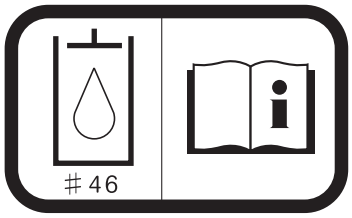
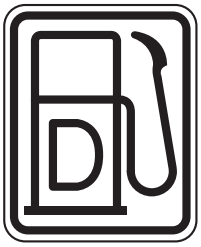
警告ラベル・指示ラベル貼付位置_004



警告ラベル・指示ラベル貼付位置_005

警告ラベル・指示ラベルの説明

1	 qigqnx-079	LM3200-0906Z0 操作ラベル 1. ⚠ 警告 取扱説明書をお読みください。 2. ⚠ 警告 駐車ブレーキを掛け、エンジンを停止し、エンジンキーを抜いてから機械を離れてください。 3. ⚠ 危険 飛散物 - 作業者以外は機械から安全な距離を保つようにしてください。 4. ⚠ 危険 手足を切る - 可動部分に近づかないでください。 5. ⚠ 危険 転倒 - 15 度以上の傾斜の斜面での作業は行わないでください。 斜面を下りるときはシートベルトを着用し、モアユニットを下げて低速で走行してください。 6. 公道乗車禁止マーク
2	 qigqnx-080	K4205001840 エンジン始動・停止ラベル 1. ⚠ 警告 取扱説明書をお読みください。 2. エンジン始動手順 取扱説明書をお読みください。 〔1〕着座する。 〔2〕キーを「GLOW」位置に回し、サーモスタートランプが消えるのを待つ。 〔3〕「START」位置に回す。 〔4〕ブレーキペダルを踏んで駐車ブレーキを解除する。 3. エンジン停止手順 〔1〕リール回転スイッチを切り、モアユニットを上げる。 〔2〕駐車ブレーキをかける。 〔3〕キーを「STOP」位置に回し、抜き取る。

3	 qigqnx-010	K4205001600 切断注意ラベル **⚠ 危険** 手足を切る - 回転を停止し、エンジンを停止しないとケガをする危険があります。
4	 qigqnx-022	K4205001540 高温部注意ラベル ⚠ 注意 高温 - 火傷をするので、触らないでください。
5	 qigqnx-035	K4205001580 はさまれ注意ラベル ⚠ 注意 はさまれる - はさまれる場合があります。
6	 qigqnx-012	K4205001530 回転物注意ラベル **⚠ 危険** 回転物注意 - エンジン回転中はベルトに手を近づけないでください。
7	 qigqnx-020	K4209000980 油圧作動油マーク 取扱説明書をお読みください。
8	 qigqnx-021	K4209001000 燃料マーク 2 号軽油を使用してください。（ローサルファまたは、ウルトラローサルファディーゼルフューエルオンリー）

9	 qigqnx-041	K4205001940 火気厳禁ラベル ⚠ 危険 火気厳禁
10	 qigqnx-067	K4205001900 モアロック注意ラベル
11	 qigqnx-045	K4205001970 高温部冷却液噴出注意ラベル ⚠ 注意 冷却液の噴出に注意 - 熱い時は開けないでください。
12	12 qigqnx-081	PFT0180-4957-1 ラベル（ファン注意） ⚠ 注意 回転物注意 - エンジン回転中はベルトに手を近づけないでください。

使用前の点検..... Page 4-2

リールカッターとベッドナイフ..... Page 4-2
ラジエータカバー..... Page 4-2
ラジエータ..... Page 4-2
冷却水..... Page 4-3
オイルクーラ..... Page 4-5
油圧作動油..... Page 4-6
エアクリーナ..... Page 4-7
バッテリ..... Page 4-9
タイヤ..... Page 4-10
ブレーキ..... Page 4-10
ベルト..... Page 4-11
エンジン周り..... Page 4-11
エンジンオイル..... Page 4-11
燃料..... Page 4-13
油漏れ..... Page 4-14

締付トルク..... Page 4-15

標準締付トルク..... Page 4-15
重要締付トルク..... Page 4-17

使用前の調整..... Page 4-19

ハンドルの調整..... Page 4-19
シートの調整..... Page 4-19
刃合わせ調整..... Page 4-20
刈高の調整..... Page 4-21
カッター調節スプリングの調整..... Page 4-22

エンジン始動・停止方法..... Page 4-22

エンジン始動・停止..... Page 4-22
安全装置について..... Page 4-23
警報装置について..... Page 4-23

各部の操作方法..... Page 4-24

機械操作上の注意..... Page 4-24
機械を離れるときの注意..... Page 4-24
操作ラベル説明..... Page 4-24
近接センサ..... Page 4-28
リレー..... Page 4-28
リール回転スイッチ..... Page 4-29
2WD-4WD 切換スイッチ..... Page 4-29
ライトスイッチ..... Page 4-30
リール正転・逆転スイッチ..... Page 4-30
リール回転・停止切換レバー..... Page 4-31
モアロックレバー（ラッチ）..... Page 4-31
モアユニット昇降レバー..... Page 4-32
スロットルレバー..... Page 4-32
デフロックスイッチ..... Page 4-32
走行ペダル..... Page 4-33
ブレーキペダル..... Page 4-33
駐車ブレーキレバー..... Page 4-33
ボンネットカバー..... Page 4-33
シート下カバー..... Page 4-34

各部の計器..... Page 4-34

操作パネルの計器説明..... Page 4-34
タコメータ・アワーメータ..... Page 4-35
水温計..... Page 4-35
燃料計..... Page 4-35
パイロットランプ..... Page 4-35

移動..... Page 4-36

移動操作..... Page 4-36
牽引方法..... Page 4-36

刈込み..... Page 4-37

刈込操作..... Page 4-37

運搬..... Page 4-38

運搬方法..... Page 4-38

使用前の点検

機械の性能を引き出し、長くご使用いただくために、必ず使用前の点検をしてください。

リールカッターとベッドナイフ

リールカッターとベッドナイフの点検

使用頻度や作業中の異物の噛込み、移動中での損傷等により切れにくくなることがあります。点検をし、必要に応じて刃合わせ調整、リールカッターとベッドナイフをバックラッピング、研磨、または交換してください。

1. リールカッターとベッドナイフの刃先が丸みを帯びて切りづらくないか確認してください。
2. リールカッターとベッドナイフが割れていないか確認してください。
3. リールカッターとベッドナイフの摩耗量を確認してください。
4. リールカッターとベッドナイフが研削焼けし、変色していないか確認してください。
5. リールカッターの 2 番の刃があるか確認してください。
6. リールカッターと円盤との溶接が剥がれていないか確認してください。

ラジエータカバー

ラジエータカバーの点検

1. ラジエータカバーに損傷がないか確認してください。
2. ラジエータカバーに汚れがないか確認してください。

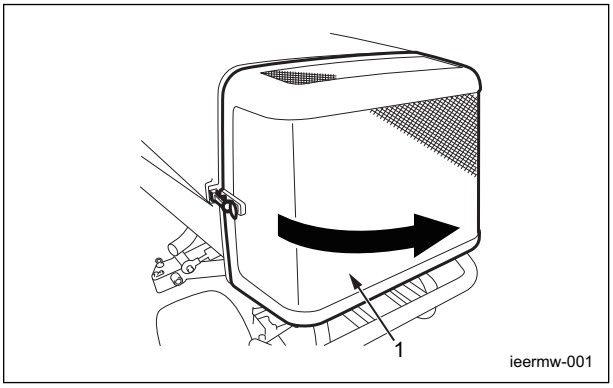
ラジエータカバーの清掃

重要

清掃をしないと、エンジンのオーバーヒート、焼付きの原因となります。
また、油圧機器の故障の原因にもなります。

ラジエータカバーに埃が付着している場合は、必ず取除いてください。
特に、埃の多い場所での作業は、早めに取除いてください。

1. ラジエータカバーを開けてください。



ラジエータカバーの清掃_001

1	ラジエータカバー

2. ラジエータカバーの裏表を水または圧縮空気で丁寧に清掃してください。

ラジエータ

ラジエータの点検

エンジンの取扱いについては、エンジンの取扱説明書を参照してください。

1. ラジエータに損傷がないか確認してください。
2. ラジエータに汚れがないか確認してください。

ラジエータの清掃

エンジンの取扱いについては、エンジンの取扱説明書を参照してください。

重要

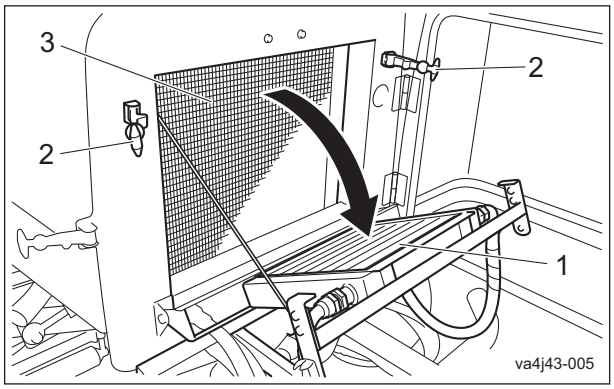
清掃をしないと、エンジンのオーバーヒート、焼付きの原因となります。
また、油圧機器の故障の原因にもなります。

重要

ラジエータやオイルクーラは、へらやドライバー等の固いもの及び、高圧洗浄で清掃しないでください。
特殊フィンやチューブを傷め、冷却能力の低下や冷却水漏れの原因になります。

ラジエータに埃が付着している場合は、必ず取除いてください。
特に、埃の多い場所での作業は、早めに取除いてください。

1. ラジエータカバーを開けてください。
2. オイルクーラの左右のゴムキャッチを外し、オイルクーラを傾けてください。



ラジエータの清掃_001

1	オイルクーラ
2	ゴムキャッチ
3	ラジエータ

3. ラジエータの裏表を水または圧縮空気で丁寧に清掃してください。

冷却水

冷却水の点検

エンジンの取扱いについては、エンジンの取扱説明書を参照してください。

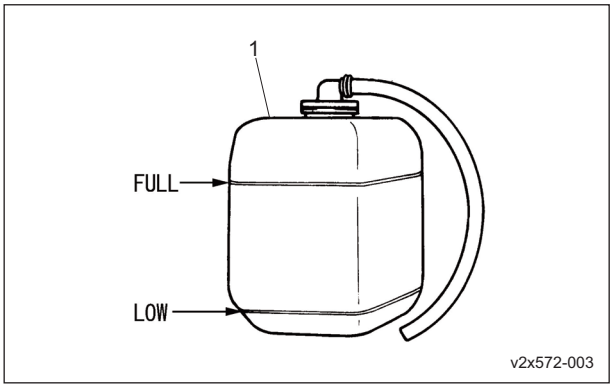
⚠ 警告

エンジン運転中及び停止直後のラジエータ、冷却水には絶対に触れないでください。
高温のため火傷をする恐れがあります。

⚠ 注意

点検はエンジンが十分冷えてから、行ってください。

1. リザーブタンクの冷却水が「FULL」と「LOW」の間にあることを確認してください。



冷却水の点検_001

1	リザーブタンク

冷却水の補給

エンジンの取扱いについては、エンジンの取扱説明書を参照してください。

⚠ 警告

エンジン運転中及び停止直後のラジエータ、冷却水には絶対に触れないでください。
高温のため火傷をする恐れがあります。
ラジエータが十分冷えてから、ラジエータキャップを開けてください。

⚠ 注意

補給はエンジンが十分冷えてから、行ってください。

⚠ 注意

ラジエータキャップは、加圧式です。
エンジンが過熱した状態でラジエータキャップを取外すと高温の蒸気が吹き出し、火傷をする恐れがあります。
水温及び、圧力が下がってからキャップを厚手の布等を当て、徐々に開けてください。

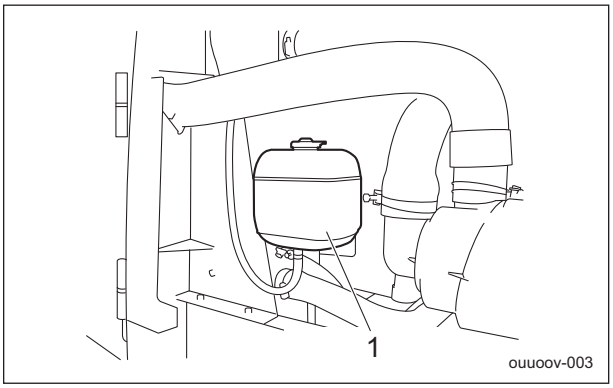
重要

冷却水を補給する場合は、必ず水道水などのきれいな水を使用してください。
冬期は冷却水を排出するか、不凍液（ロングライフクーラント）ときれいな水を混合し、ラジエータ及び、リザーブタンクに注入してください。

ロングライフクーラント（LLC）濃度と凍結温度の関係

凍結温度	LLC 濃度（容量%）
-10°C（14°F）まで	20 %
-15°C（5°F）まで	30 %
-20°C（-4°F）まで	35 %
-25°C（-13°F）まで	40 %

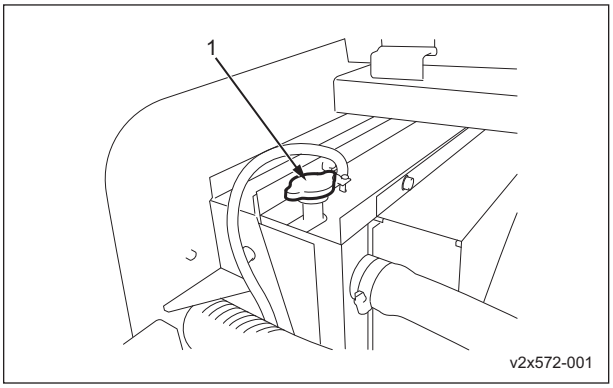
1. リザーブタンクの冷却水が「LOW」以下の場合は、リザーブタンクのキャップを開け、「FULL」まできれいな水を補給してください。



冷却水の補給_001

1	リザーブタンク

2. リザーブタンクの冷却水がない場合は、以下の要領できれいな水を補給してください。
〔1〕ラジエータキャップを開け、口元まできれいな水を補給してください。
〔2〕リザーブタンクのキャップを開け、「FULL」まできれいな水を補給してください。



冷却水の補給_002

1	ラジエータキャップ

冷却水の交換

エンジンの取扱いについては、エンジンの取扱説明書を参照してください。

⚠ 警告

冷却水を交換する場合は、冷却水を容器で受け、地域の法律に従って適切に処分してください。

⚠ 警告

エンジン運転中及び停止直後のラジエータ、冷却水には絶対に触れないでください。
高温のため火傷をする恐れがあります。
ラジエータが十分冷えてから、ラジエータキャップを開けてください。

⚠ 注意

交換はエンジンが十分冷えてから、行ってください。

重要

冷却水を交換する場合は、必ず水道水などのきれいな水を使用してください。
冬期は冷却水を排出するか、不凍液（ロングライフクーラント）ときれいな水を混合し、ラジエータ及び、リザーブタンクに注入してください。

冷却水の交換方法ついては、エンジンの取扱説明書を参照してください。
冷却水容量は、リザーブタンクを含み、12.0 dm^3（12.0 L）です。

オイルクーラ

オイルクーラの点検

1. オイルクーラに損傷がないか確認してください。
2. オイルクーラに汚れがないか確認してください。

オイルクーラの清掃

⚠ 注意

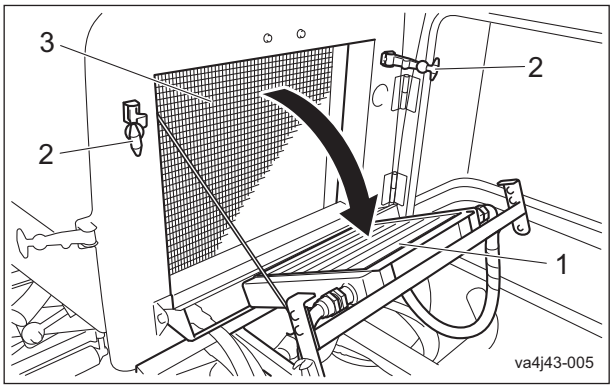
清掃をしないと、油圧機器の故障の原因になります。

重要

ラジエータやオイルクーラは、へらやドライバー等の固いもの及び、高圧洗浄で清掃しないでください。
特殊フィンやチューブを傷め、冷却能力の低下や冷却水漏れの原因になります。

オイルクーラに埃が付着している場合は、必ず取除いてください。
特に、埃の多い場所での作業は、早めに取除いてください。

1. ラジエータカバーを開けてください。
2. オイルクーラの左右のゴムキャッチを外し、オイルクーラを傾けてください。



オイルクーラの清掃_001

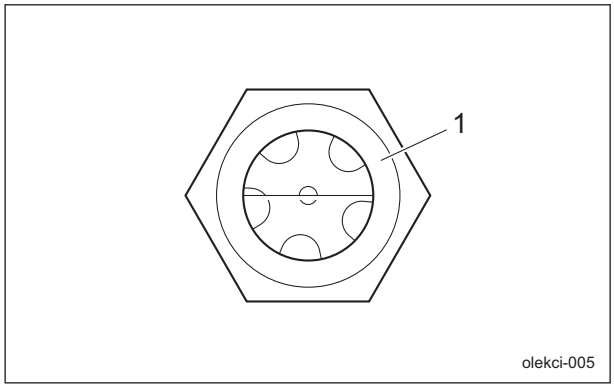
1	オイルクーラ
2	ゴムキャッチ
3	ラジエータ

3. オイルクーラの裏表を水または圧縮空気で丁寧に清掃してください。

油圧作動油

油圧作動油の点検

1. 水平な場所でモアユニットを上げた状態にしてください。
2. 作動油が油量ゲージの中心まで入っているか確認してください。



油圧作動油の点検_001

1	油量ゲージ

3. 機体の下を確認し、作動油漏れがないことを確認してください。

油圧作動油の補給

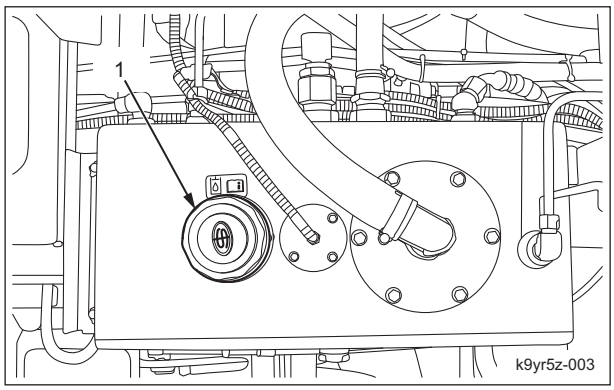
重要

異なった種類の作動油を混ぜないでください。

重要

作動油は、シェルテラス S2M46（相当品）を使用してください。

1. 作動油が少ない場合は、タンクカバー左を取外して、タンクキャップを開け、補給してください。



油圧作動油の補給_001

1	タンクキャップ

2. タンクキャップを確実に閉めてください。
3. エンジンを始動し、モアユニットを上げ下ろしし、左右にハンドルを切ってください。前後進を数度繰り返してください。
4. 水平な場所でモアユニットを上げた状態で油面が、油量ゲージの中心にあるか確認し、必要があれば補給してください。
5. 機体の下を確認し、作動油漏れがないことを確認してください。
6. タンクカバー左を取付けてください。

油圧作動油の交換

⚠ 警告

作動油を交換する場合は、作動油を容器で受け、地域の法律に従って適切に処分してください。

⚠ 注意

作動油が乳化､または透明度が少しでも悪くなった場合は、即交換してください。

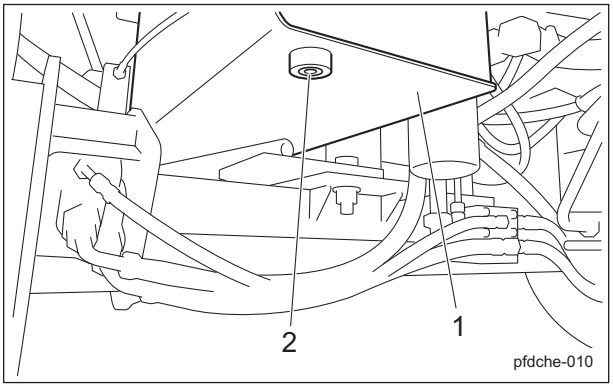
⚠ 注意

熱いオイルが皮膚に付くと火傷をする恐れがありますので、十分注意してください。

重要

作動油は、シェルテラス S2M46（相当品）を使用してください。

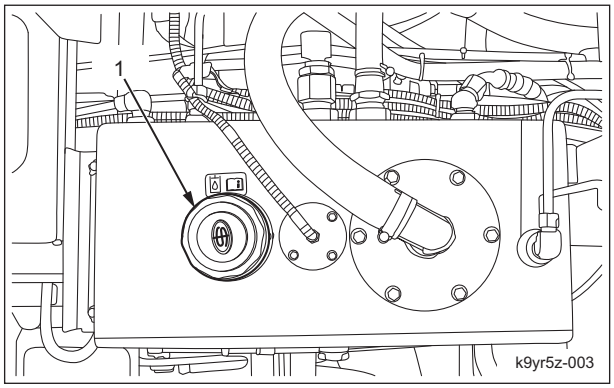
1. 以下の要領で、古い作動油を抜き取ってください。
   〔1〕エンジンを始動し、作動油を温めてください。
   〔2〕水平な場所で、モアユニットを下降させ、エンジンを停止してください。
   〔3〕油圧タンクのドレンプラグを外し、古い作動油を容器に抜き取ってください。
   〔4〕ドレンプラグに新しいシールテープを巻き直し、油圧タンクに再び取付けてください。



油圧作動油の交換_001

1	油圧タンク
2	ドレンプラグ

2. タンクカバー左を取外してください。
3. タンクキャップを開け、注入口から新しい作動油を油面が油圧タンクの油量ゲージの中心になるまで入れてください。
   油圧タンク容量は、約 44.0 dm^3（44.0 L）です。



油圧作動油の交換_002

1	タンクキャップ

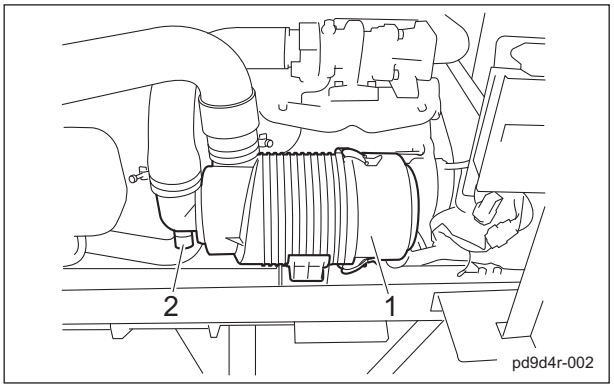
4. タンクキャップを確実に閉めてください。
5. エンジンを始動し、モアユニットを上げ下ろしし、左右にハンドルを切ってください。
   前後進を数度繰り返してください。
6. 水平な場所でモアユニットを上げた状態で油面が、油量ゲージの中心にあるか確認し、必要があれば補給してください。
7. 機体の下を確認し、作動油漏れがないことを確認してください。
8. タンクカバー左を取付けてください。

エアクリーナ

エアクリーナの点検

エンジンの取扱いについては、エンジンの取扱説明書を参照してください。
エアクリーナは吸入された吸気に含まれている砂塵を取り、シリンダライナ、ピストンリングの摩耗を防ぎ、エンジンをいつも快調にする装置です。
エアクリーナエレメントが汚れていると、エンジン不調の原因となります。

1. エアクリーナの点検は、バキュームインジケータで行ってください。
   エアクリーナエレメントが汚れてくると、バキュームインジケータに赤いリングが見えてきます。



エアクリーナの点検_001

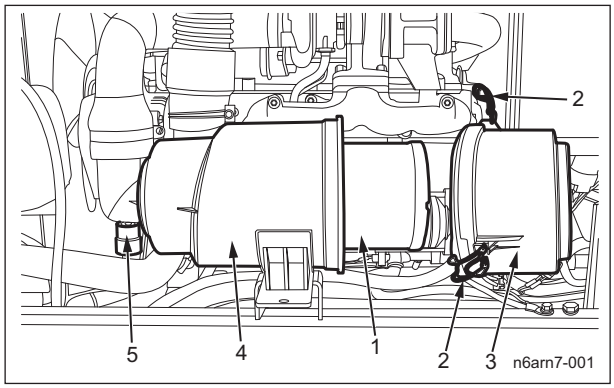
1	エアクリーナ
2	バキュームインジケータ

2. エアクリーナに損傷がないか確認してください。
3. エアクリーナエレメントに汚れがないか確認してください。

エアクリーナの清掃

エンジンの取扱いについては、エンジンの取扱説明書を参照してください。
エアクリーナエレメントが汚れていると、エンジン不調の原因となります。
エンジンの寿命を延ばすために適切な清掃をするように心掛けてください。

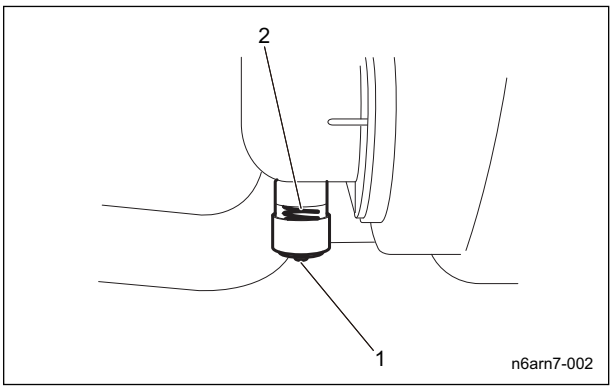
1. 以下の要領で清掃をしてください。
   〔1〕クリップ 2 ヶ所を外し、エアクリーナキャップを取外し、エアクリーナエレメントを取外してください。
   〔2〕エアクリーナエレメントを傷つけないように注意し、エアクリーナエレメントの固い部分を軽く叩くか、内側からエアを吹き付けて埃や屑を取除いてください。
   もし、極端に汚れている場合は、新しいエアクリーナエレメントに交換してください。
   〔3〕エアクリーナボディにエアクリーナエレメントを取付けてください。
   〔4〕エアクリーナキャップを取付け、クリップで確実に固定してください。



エアクリーナの清掃_001

1	エアクリーナエレメント
2	クリップ
3	エアクリーナキャップ
4	エアクリーナボディ
5	バキュームインジケータ

2. バキュームインジケータのリセットボタンを押してください。



エアクリーナの清掃_002

1	リセットボタン
2	バキュームインジケータ

エアクリーナの交換

エンジンの取扱いについては、エンジンの取扱説明書を参照してください。
エアクリーナエレメントが汚れていると、エンジン不調の原因となります。
エンジンの寿命を延ばすために適切な時期に交換をするように心掛けてください。

1. エアクリーナエレメントの交換時期は、以下の通りです。
   〔1〕エアクリーナエレメントは、メンテナンススケジュールに従って交換してください。
   〔2〕汚れの多い場合は、規定時間に達していなくても交換してください。
   〔3〕規定時間に達していなくても、1 年間で交換してください。
2. エアクリーナエレメントの交換は、エアクリーナの清掃と同様の手順で行ってください。
   (「エアクリーナの清掃」 (Page 4-8)参照)

バッテリ

バッテリの点検

バッテリの取扱いについては、バッテリの取扱説明書を参照してください。

⚠ 危険

バッテリの点検・充電は火気厳禁です。
バッテリが爆発する恐れがあります。

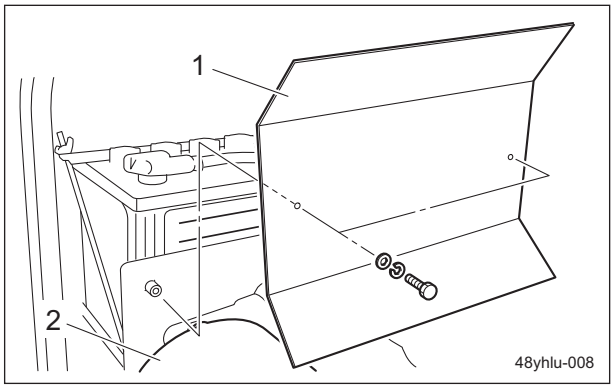
⚠ 警告

バッテリ液の液面を「LOWER LEVEL」（最低液面線）以下にしないでください。
バッテリ液の液面が「LOWER LEVEL」（最低液面線）になったまま使用または、充電するとバッテリが爆発する恐れがあります。

⚠ 注意

マフラやエンジンなどが十分に冷めてから行ってください。
火傷をする恐れがあります。

1. 遮熱板を取外してください。

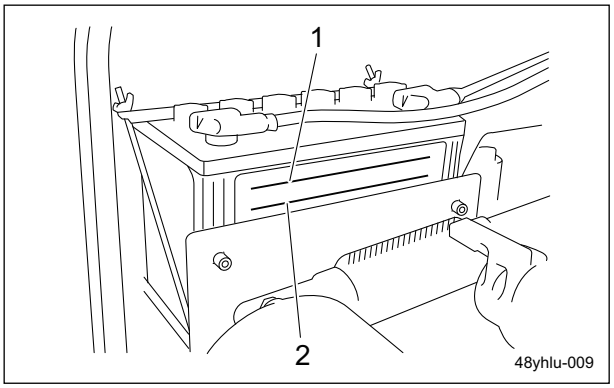


バッテリの点検_001

1	遮熱板
2	マフラ

2. 水で湿らせた布で液面線の周囲を清掃してください。

3. バッテリ液の液面が「UPPER LEVEL」（最高液面線）と「LOWER LEVEL」（最低液面線）の間にあることを確認してください。



バッテリの点検_002

1	UPPER LEVEL
2	LOWER LEVEL

バッテリ液の補給

バッテリの取扱いについては、バッテリの取扱説明書を参照してください。

⚠ 危険

バッテリ液が身体や目、服等に付着したり、飲んだりしないように注意してください。
バッテリ液が身体や服に付着したときは、すぐに水で洗い流してください。

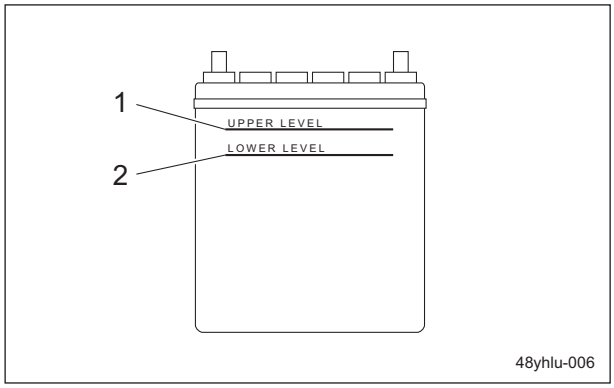
⚠ 警告

バッテリ液を補給する際は、保護服、保護メガネ等を着用してください。

⚠ 注意

マフラやエンジンなどが十分に冷めてから行ってください。
火傷をする恐れがあります。

1. バッテリ液の液面が「UPPER LEVEL」（最高液面線）と「LOWER LEVEL」（最低液面線）間の半分以下に低下している場合は、「UPPER LEVEL」（最高液面線）まで精製水を補給してください。



バッテリ液の補給_001

1	UPPER LEVEL
2	LOWER LEVEL

タイヤ

タイヤの点検

1. タイヤの空気圧を確認してください。
2. 亀裂、損傷、異常摩耗がないか確認してください。

タイプ_F

タイヤサイズ	空気圧
前輪（31 x 13.50 - 15）	140 kPa（1.4 kgf/cm^2）
後輪（20 x 12.00 - 10）	140 kPa（1.4 kgf/cm^2）

タイプ_R

タイヤサイズ	空気圧
前輪（31 x 15.50 - 15）	140 kPa（1.4 kgf/cm^2）
後輪（20 x 12.00 - 10）	140 kPa（1.4 kgf/cm^2）

ブレーキ

ブレーキの点検

走行中、ブレーキペダルを強く踏み、ブレーキが効くことを確認してください。

駐車ブレーキの点検

1. ブレーキペダルを踏みながら、駐車ブレーキレバーを引いたとき、ブレーキが効くことを確認してください。
2. ブレーキペダルを踏み、駐車ブレーキレバーが戻ったとき、ブレーキの引きずりがないことを確認してください。

ベルト

ベルトの点検

> ⚠ 注意
>
> ベルトの点検は、必ずエンジンを停止させた状態で行ってください。

> ⚠ 注意
>
> 点検時にカバー等を取外した場合は、必ず元の位置に確実に取付けてください。
> カバー等が取外されていると、回転物やベルトに触れて、ケガをする恐れがあります。

> 重要
>
> ベルトの緩みや損傷、ファンの損傷は、オーバーヒートや充電不足の原因となります。

1. ベルトの中央を指で押さえて、張り具合を確認してください。
2. 亀裂、損傷、異常摩耗がないか確認してください。

エンジン周り

エンジン周りの点検

エンジンの取扱いについては、エンジンの取扱説明書を参照してください。

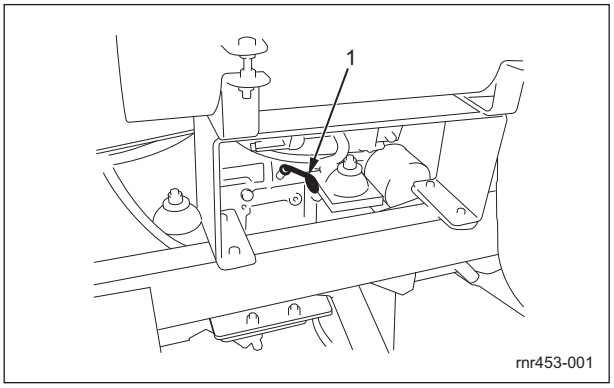
1. 燃料系の部品は、取付部に緩みやひび割れ、漏れがないか確認し、必要があれば交換してください。
2. マフラの中や周りに芝草や可燃物が付着している場合は、圧縮空気を吹き付けて清掃してください。

エンジンオイル

エンジンオイルの点検

> 重要
>
> オイルレベルゲージとオイルフィラキャップは、確実にねじ込んでください。

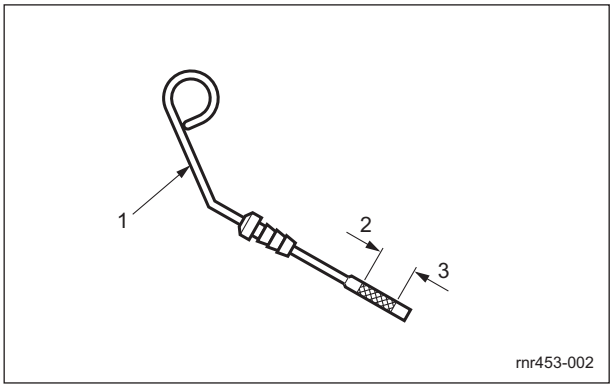
1. オイルレベルの点検は、エンジンを停止し、10 － 20 分後に行ってください。
2. エンジンを水平状態にし、オイルレベルゲージを奥まで差込み、オイル量を調べてください。



エンジンオイルの点検_001

1	オイルレベルゲージ

3. 上限と下限の間にあれば適量です。



エンジンオイルの点検_002

1	オイルレベルゲージ
2	上限
3	下限

エンジンオイルの補給

エンジンの取扱いについては、エンジンの取扱説明書を参照してください。

重要

エンジンオイルの入れ過ぎは、エンジンの破損事故の原因となります。

重要

絶対に異なった種類のエンジンオイルを混ぜないでください。

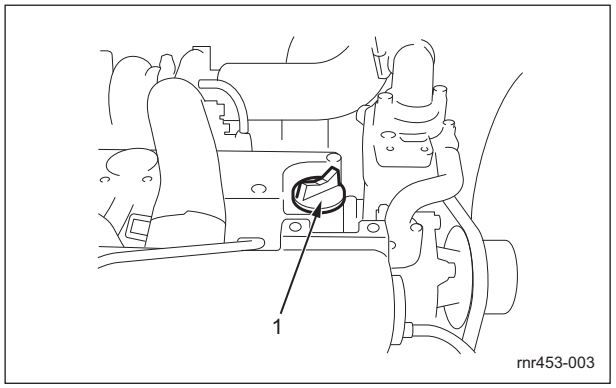
重要

エンジンオイルは、API サービス分類の CF 級以上で、使用環境（気温）に合わせた SAE 粘度のオイルを使用してください。

重要

オイルレベルゲージとオイルフィラキャップは、確実にねじ込んでください。

1. エンジンオイルが、オイルレベルゲージの下限より少ない場合、エンジンオイルの補給は、オイルフィラより行います。
   オイルフィラキャップを外し、新しいエンジンオイルの油面がオイルレベルゲージの上限と下限の間になるまで入れてください。
2. オイルフィラキャップを閉めてください。



エンジンオイルの補給_001

1	オイルフィラキャップ

3. 補給したエンジンオイルは、オイルパンに下がるまでである程度時間を要します。
   補給してから 10 － 20 分後にオイルの量を再点検してください。

エンジンオイルの交換

エンジンの取扱いについては、エンジンの取扱説明書を参照してください。

⚠ 警告

エンジンオイルを交換する場合は、エンジンオイルを容器で受け、地域の法律に従って適切に処分してください。

⚠ 注意

熱いオイルが皮膚に付くと火傷をする恐れがありますので、十分注意してください。

重要

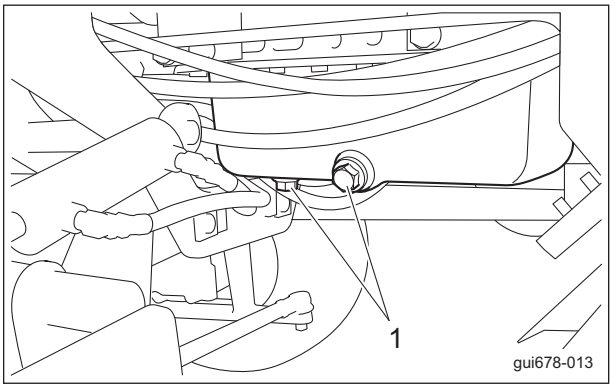
エンジンオイルは、API サービス分類の CF 級以上で、使用環境（気温）に合わせた SAE 粘度のオイルを使用してください。

重要

オイルレベルゲージとオイルフィラキャップは、確実にねじ込んでください。

エンジンオイルが汚れていたり、埃の多い環境で運転した場合や、エンジンを高負荷あるいは高温で運転した場合は、オイル交換の回数を増やしてください。

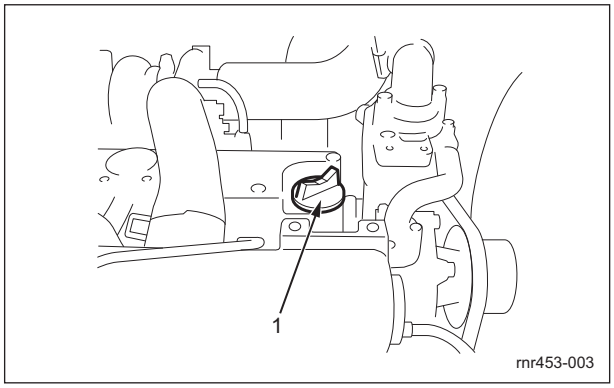
1. 機械を平らな場所に移動させ、エンジンを止め、エンジンオイルが温まっている間にドレンプラグを外し、エンジンオイルを容器に抜取ります。
2. ドレンプラグをエンジンに再度取付けます。



エンジンオイルの交換_001

1	ドレンプラグ

3. オイルフィラより、新しいエンジンオイルの油面がオイルレベルゲージの上限と下限の間になるまで入れます。
   エンジンオイル量は、約 10.0 dm^3（10.0 L）です。
4. オイルフィラキャップを閉めてください。



エンジンオイルの交換_002

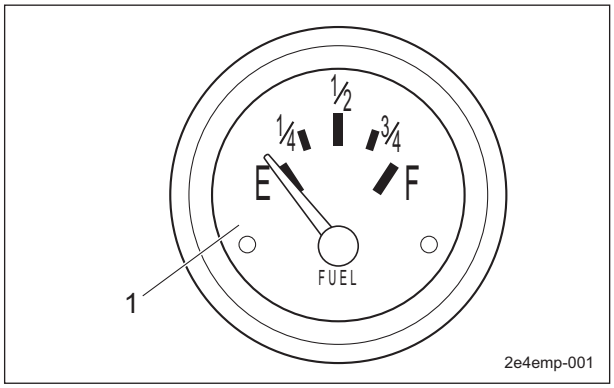
1	オイルフィラキャップ

5. 補給したエンジンオイルは、オイルパンに下がるまである程度時間を要します。
   補給してから 10 - 20 分後にオイルの量を再点検してください。

燃料

燃料の点検

機械を水平な状態にし、操作パネルの燃料計にて、量の確認をしてください。



燃料の点検_001

1	燃料計

燃料の補給

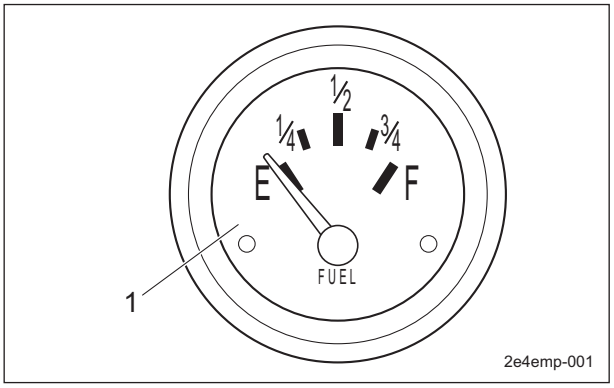
危険

燃料ゲージの F（FULL）の位置以上に給油はしないでください。
燃料を入れ過ぎると、傾斜地での走行・作業時等にキャップより燃料があふれる可能性があります。

警告

燃料補給時は、火気厳禁です。
喫煙しないでください。

操作パネルの燃料計が、E（EMPTY）に近づいたら早めに燃料（軽油）の補給を行ってください。
燃料タンク容量は、約 51.0 dm^3（51.0 L）です。



燃料の補給_001

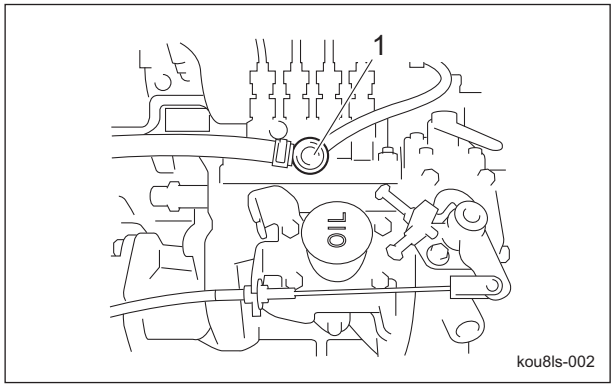
1	燃料計

燃料の空気抜き

重要

空気抜きコックは、常に全開の状態で使用してください。
閉じた状態で使用するとエンジンストップの原因になります。

自動エア抜きのため、空気抜きの操作は不要です。



燃料の空気抜き_001

1	**空気抜きコック**

油漏れ

各部油漏れの点検

⚠ 注意

油圧系統のメンテナンスを行うときは、モアユニットを下降させてください。

本機を 50 時間くらい使用すると、締付け部の緩み等が発生し、油が漏れる可能性があります。
必ず増締めを行ってください。
機械の下を確認し、オイル等の漏れがないか確認してください。

締付トルク

標準締付トルク

ボルト、ねじ類

重要

各部には、ボルト止めが多く使われております。
使用初期はボルト、ナット等の緩みの出る場合がありますので、必ず増締めを行ってください。

特別指示のないボルト、ナットは、適切な工具により適正な締付トルクで締付けてください。
締付が強すぎると「ねじ」は緩んだり、破損したりします。
締付強さは、ねじの種類、強度、ねじ面や座面の摩擦等で決めております。
一覧表は、亜鉛メッキまたはパーカー処理したボルトを対象としております。
めねじの強度が弱い場合は適用できません。
錆びていたり、砂等が付着している「ねじ」は、使用しないでください。
所定の締付トルクを与えても締付け不足になります。
ねじ面の摩擦が大きくなり、締付トルクのほとんどを摩擦損失し、締付ける力になりません。
「ねじ」が水や油で濡れている場合は、通常の締付トルクで締めないでください。
ねじが濡れるとトルク係数が小さくなり、締め過ぎになります。
締め過ぎると、ねじが伸びて緩んだり、破損することがあります。
一度、大きな負荷がかかったボルトは、使用しないでください。
インパクトレンチで締めるときは、熟練が必要です。
できるだけ安定した締付け作業ができるように練習してください。

呼び径	一般ボルト 強度区分 4.8 tib3yb-001		
	N-m	kgf-cm	lb-in
M5	3 - 5	30.59 - 50.99	26.55 - 44.26
M6	7 - 9	71.38 - 91.77	61.96 - 79.66
M8	14 - 19	142.76 - 193.74	123.91 - 168.17
M10	29 - 38	295.71 - 387.49	256.68 - 336.34
M12	52 - 67	530.24 - 683.20	460.25 - 593.02
M14	70 - 94	713.79 - 958.52	619.57 - 831.99
M16	88 - 112	897.34 - 1142.06	778.89 - 991.31
M18	116 - 144	1,182.85 - 1,468.37	1,026.72 - 1,274.54
M20	147 - 183	1,498.96 - 1,866.05	1,301.10 - 1,619.73
M22	295	3,008.12	2,611.05
M24	370	3,772.89	3,274.87
M27	550	5,608.35	4,868.05
M30	740	7,545.78	6,549.74

呼び径	調質ボルト					
	強度区分 8.8			強度区分 10.9		
	tib3yb-002			tib3yb-003		
	N-m	kgf-cm	lb-in	N-m	kgf-cm	lb-in
M5	5 - 7	50.99 - 71.38	44.26 - 61.96	7 - 10	71.38 - 101.97	61.96 - 88.51
M6	8 - 11	81.58 - 112.17	70.81 - 97.36	14 - 18	142.76 - 183.55	123.91 - 159.32
M8	23 - 29	234.53 - 295.71	203.57 - 256.68	28 - 38	285.52 - 387.49	247.83 - 336.34
M10	45 - 57	458.87 - 581.23	398.30 - 504.51	58 - 76	591.43 - 774.97	513.36 - 672.68
M12	67 - 85	683.20 - 866.75	593.02 - 752.34	104 - 134	1,060.49 - 1,366.40	920.50 - 1186.03
M14	106 - 134	1,080.88 - 1,366.40	938.21 - 1,186.03	140 - 188	1,427.58 - 1,917.04	1,239.14 - 1,663.99
M16	152 - 188	1,549.94 - 1,917.04	1,345.35 - 1,663.99	210 - 260	2,141.37 - 2,651.22	1,858.71 - 2,301.26
M18	200 - 240	2,039.40 - 2,447.28	1,770.20 - 2,124.24	280 - 340	2,855.16 - 3,466.98	2,478.28 - 3,009.34
M20	245 - 295	2,498.27 - 3,008.12	2,168.50 - 2,611.05	370 - 450	3,772.89 - 4,588.65	3,274.87 - 3,982.95
M22	—	—	—	530	5,404.41	4,691.03
M24	—	—	—	670	6,831.99	5,930.17
M27	—	—	—	1,000	10,197.00	8,851.00
M30	—	—	—	1,340	14,628.78	11,860.34

参考：
「細目ねじ」についても、同じ数値とする。

重要締付トルク

機種別締付トルク

LM3200
次のボルト、ナットは下記のトルクで締付けてください。
ねじ緩み止め剤は、ネジロック中強度（スリーボンド 1322　嫌気性強力封着剤）を塗布してください。

部位		コード番号	品名	締付トルク			ねじ緩み止め剤
				N-m	kgf-cm	lb-in	
前輪	モータ取付板	K0014160402	16 調質ボルト 40P1.5	152 - 188	1549.94 - 1917.04	1345.35 - 1663.99	ー
	モータ	K0013140502	14 調質ボルト 50	100	1019.70	885.10	ー
	ホイール取付座	1・1/4-18UNF	油圧モータ付溝付ナット	200	2039.40	1770.20	ー
	ディスクブレーキ	K0024080401	8 六角穴付ボルト 40	28 - 38	285.52 - 387.49	247.83 - 336.34	ー
	ホイール	K0014120652	12 調質ボルト 65P1.5	67 - 85	683.20 - 833.75	593.02 - 752.34	ー
後輪	モータ	K0010120502	12 調質ボルト 50	52 - 67	530.42 - 683.20	460.25 - 593.02	ー
	ホイール取付座	K0138240002	24 みぞ付ナット高 P1.5	180 - 200	1835.46 - 2039.40	1593.18 - 1770.20	ー
	ホイール	K0014120652	12 調質ボルト 65P1.5	67 - 85	683.20 - 866.75	593.02 - 752.34	ー
フロントアクスル		K00152200702	20 調質ボルト 70P1.5	370 - 450	3772.89 - 4588.65	3274.87 - 3982.95	ー
ブレーキ Ass'y		K1720000190	12 調質ボルト P1.75	150 ± 15	1529.55 ± 152.96	1327.65 ± 132.77	○
エンジン		K0012120352	12 調質ボルト 35P1.25	67 - 134	683.20 - 1366.40	593.02 - 1186.03	ー
		K0012120552	12 調質ボルト 55P1.25	67 - 134	683.20 - 1366.40	593.02 - 1186.03	ー
		K0011100502	10 調質ボルト 50P1.25	45 - 76	458.87 - 774.97	398.30 - 672.68	ー
		K0013121102	12 調質ボルト 110	67 - 134	683.20 - 1366.40	593.02 - 1186.03	○
フライホイールアダプタ		K0011100202	10 調質ボルト 20P1.25	45 - 76	458.87 - 774.97	398.30 - 672.68	ー
		K0011100302	10 調質ボルト 30P1.25	106 - 188	1080.88 - 1917.04	938.21 - 1663.99	○
ジョイント		K0024100401	10 六角穴付 12T ボルト 40	80	815.76	708.08	○
		K0013100352	10 調質ボルト 35	45 - 76	458.87 - 774.97	398.30 - 672.68	○
キングピンストッパ		K0013120552	12 調質ボルト 55	52 - 67	530.24 - 683.20	460.25 - 593.02	ー
タイロッド		K1610000020	タイロッドエンド溝付ナット	45	458.87	398.30	ー

部位	コード番号	品名	締付トルク			ねじ緩み止め剤
			N-m	kgf-cm	lb-in	
タイロッド	K1611000020	タイロッドエンド溝付ナット	45	458.87	398.30	—
ピストンポンプ	K0013120502	12 調質ボルト 50	67 - 134	683.20 - 1366.40	593.02 - 1186.03	—
タンデムギヤポンプ	K0069000251	3/8-16UNC ボルト 31.8	29 - 38	295.71 - 387.49	256.68 - 336.34	—
モア旋回金	K0011100302	10 調質ボルト 30P1.25	29 - 38	295.71 - 387.49	256.68 - 336.34	—
回転センサ	K0015120351	12 調質ボルト 35P1.25	67 - 134	683.20 - 1366.40	593.02 - 1186.03	—
デフロックバルブ	K0024100151	10 六角穴付ボルト 15	29 - 38	295.71 - 387.49	256.68 - 336.34	—
アームガイド	K00131010002	10 調質ボルト 100	45 - 76	458.87 - 774.97	398.30 - 672.68	—
バンパー	K0010120302	12 調質ボルト 30	67 - 134	683.20 - 1366.40	593.02 - 1186.03	—
カバー取付金	K0000080202	8 ボルト 20	9 - 14	91.77 - 142.76	61.96 - 123.91	—
ベッドナイフ	K0071000092	10 調質さら小ねじ 20	29 - 38	295.71 - 387.49	256.68 - 336.34	—

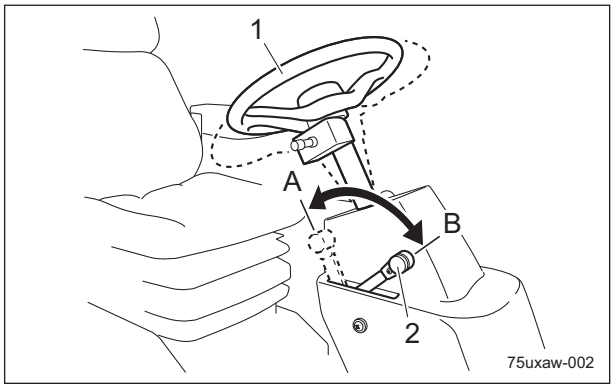
使用前の調整

ハンドルの調整

> ⚠ 警告
>
> **走行中は危険なため、調整しないでください。**

> ⚠ 注意
>
> **ロックは確実に行ってください。**
> **走行中に緩むと大変危険です。**

ハンドルは、上下に調節できます。
オペレータの体に合わせて調整してください。
チルトレバーを「FREE」の位置にし、作業に適した位置でチルトレバーを「LOCK」の位置にして固定してください。
チルトレバーは、運転席右前方にあります。



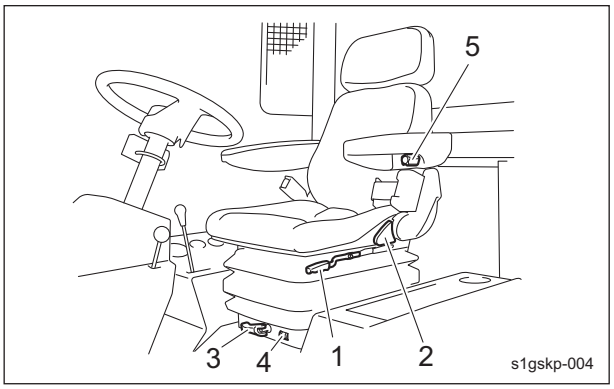
ハンドルの調整_001

1	ステアリング
2	チルトレバー
A	FREE（解除）
B	LOCK（ロック）

シートの調整

シートは、調整レバーで調節できます。
オペレータの体に合わせて調整してください。

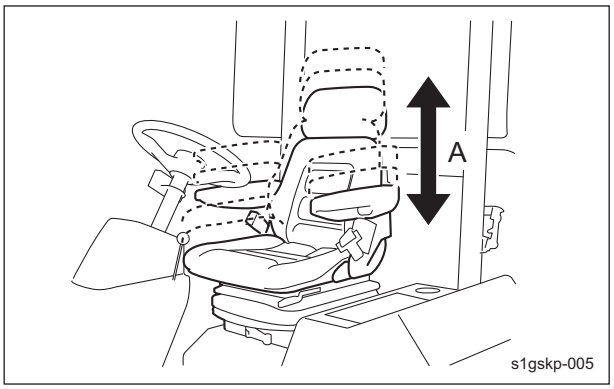
1. 前後調節レバーで、シートを前後に調節できます。
2. 角度調節レバーで、背もたれの角度調節ができます。
3. サスペンション調節ハンドルを回すことにより、シートのサスペンションの固さを調節できます。
   サスペンション調節目盛で、確認しながら調節してください。(50 - 130 kg)
4. アームレスト調節ノブを回すことにより、アームレストの角度が調節できます。



シートの調整_001

1	前後調節レバー
2	角度調節レバー
3	サスペンション調節ハンドル
4	サスペンション調節目盛
5	アームレスト調節ノブ

5. シート全体を持上げることでシートの高さが、三段階に調節できます。



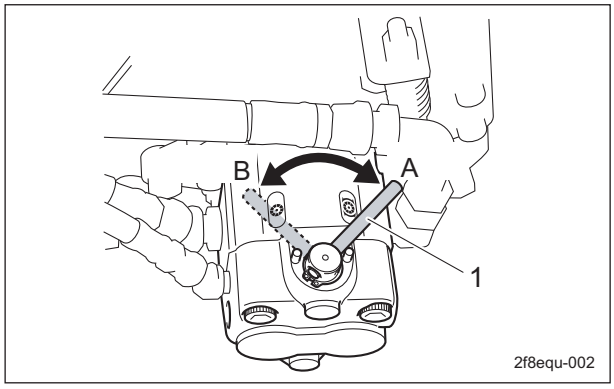
シートの調整_002

A	三段階

刃合わせ調整

> ⚠ 注意
>
> 新聞紙で切れ味を調べる際は、必ずエンジンを停止し、手袋等で手を保護してください。
> ただし、リールカッターを回す時に手袋等が巻込まれ、手や指を切る恐れがありますので、十分注意してください。

> ⚠ 注意
>
> 刃合わせ調整をする際は、必ずモアユニットに取付けてあるリールモータのリール回転・停止切換レバーを「停止」位置にしてください。

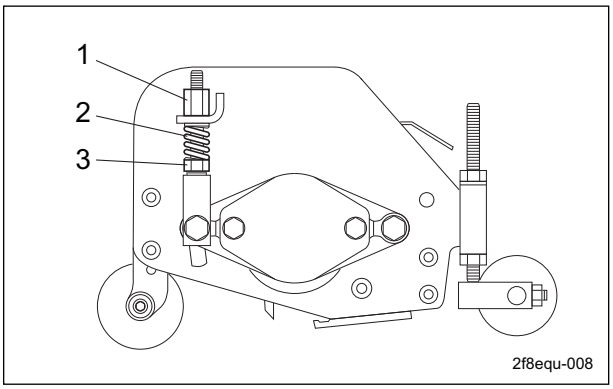


刃合わせ調整_001

1	リール回転・停止切換レバー
A	回転
B	停止

リールカッターとベッドナイフの刃合わせ調整は、調整ナットにより刃先全面を軽く接触させ、新聞紙（2 － 3 枚）が切れるように調整してください。
短冊型に裂いた新聞紙 2 － 3 枚をリールカッターとベッドナイフの間に 90° に入れ、モアユニットを左から見てリールカッターを反時計回転に手で回して切り、切れ味を調べます。
リールカッターの全面（左右 3 － 4 箇所程度）にわたり、切れ味を調べてください。

1. 刃先に隙間が生じた場合
   カッター調節ナットを緩めると、リールカッターとベッドナイフの接触は強くなります。
2. リールカッターが固くて回転しにくい場合
   カッター調節ナットを締めると、リールカッターとベッドナイフの接触は弱くなります。
3. 調整しても切れない場合
   リールカッターのバックラッピングをしてください。



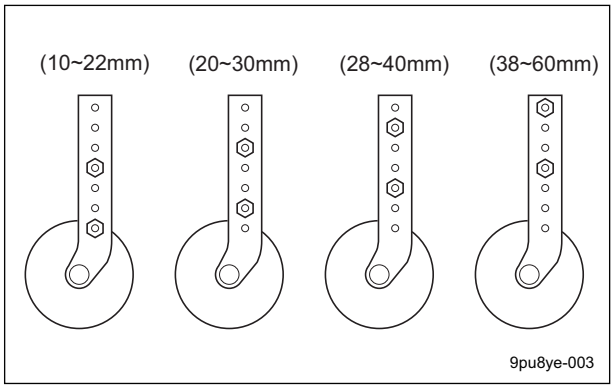
刃合わせ調整_002

1	カッター調節ナット
2	スプリング
3	カッター調節ネジ付パイプ

刈高の調整

ローラータイプ

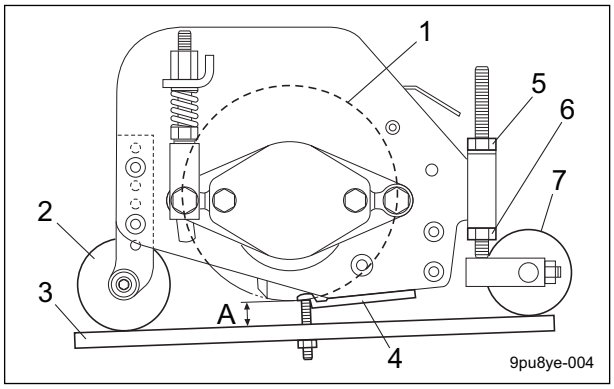
刈込作業に応じて、刈高を調整してください。
前ローラーは、4 段階に調整できます。



ローラータイプ_001

あらかじめ作業に適した刈高範囲の位置に、前ローラーを取付けます。

1. 刈高を高くする場合
   〔1〕刈高調節ナット A を緩め、刈高調節ナット B を締め、後ローラーを下げます。
   〔2〕刈高ゲージにて位置を決め、刈高調節ナット A を確実に締付けてください。
2. 刈高を低くする場合
   〔1〕刈高調節ナット B を緩め、刈高調節ナット A を締め、後ローラーを上げます。
   〔2〕刈高ゲージにて位置を決め、刈高調節ナット B を確実に締付けてください。

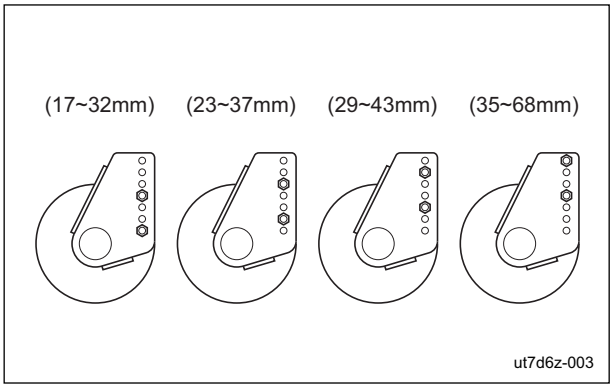


ローラータイプ_002

1	リールカッター
2	前ローラー
3	刈高ゲージ
4	ベッドナイフ
5	刈高調節ナット A
6	刈高調節ナット B
7	後ローラー
A	刈高

車輪タイプ

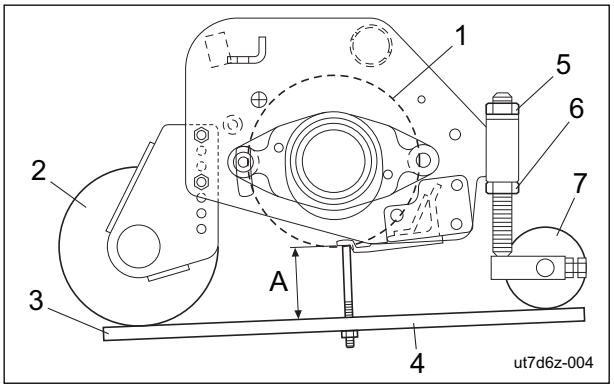
刈込作業に応じて、刈高を調整してください。
車輪は、4 段階に調整できます。



車輪タイプ_001

あらかじめ作業に適した刈高範囲の位置に、車輪を取付けます。

1. 刈高を高くする場合
   〔1〕刈高調節ナット A を緩め、刈高調節ナット B を締め、後ローラーを下げます。
   〔2〕刈高ゲージにて位置を決め、刈高調節ナット A を確実に締付けてください。
2. 刈高を低くする場合
   〔1〕刈高調節ナット B を緩め、刈高調節ナット A を締め、後ローラーを上げます。
   〔2〕刈高ゲージにて位置を決め、刈高調節ナット B を確実に締付けてください。



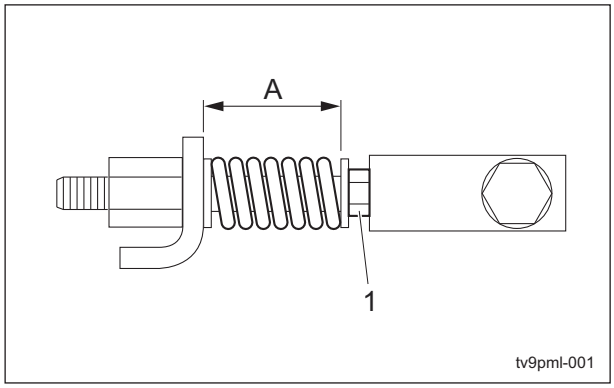
車輪タイプ_002

1	リールカッター
2	車輪
3	刈高ゲージ
4	ベッドナイフ
5	刈高調節ナット A
6	刈高調節ナット B
7	後ローラー
A	刈高

カッター調節スプリングの調整

リールカッター径が小さくなったら、カッター調節スプリングの調整をしてください。

1. 刃合わせ調整を行ってください。
2. カッター調節ネジ付パイプを緩め、スプリングコイルの長さ 40 mm（1.575 in）程度になるように調整してください。



カッター調節スプリングの調整_001

1	カッター調節ネジ付パイプ
A	40 mm（1.575 in）

エンジン始動・停止方法

エンジン始動・停止

エンジン始動手順

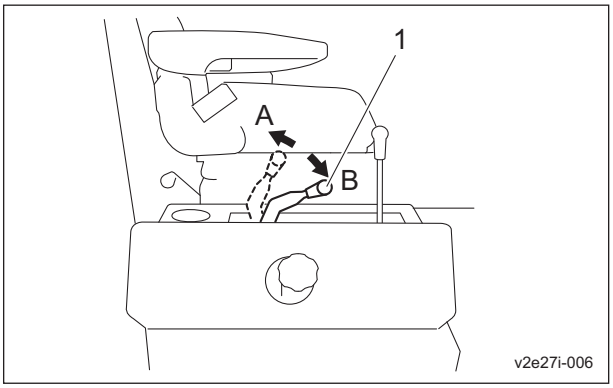
⚠ 警告

エンジンを始動する前に機械や周囲に人や障害物がないことを確認してください。

重要

スタータの操作は、最長 15 秒です。
始動しない時は、30 - 60 秒バッテリを休止させ、消耗を防いでください。

1. 運転席に着座します。
2. 駐車ブレーキがかかっていることを確認してください。
3. リール回転スイッチが「停止」の位置になっていることを確認してください。
4. 走行ペダルが中立になっていることを確認してください。
5. スロットルレバーを「Low」（かめマーク側）位置から半分程度「High」（うさぎマーク側）へ動かします。



エンジン始動手順_001

1	スロットルレバー
A	High
B	Low

重要

サーモスタートランプは、設定時間後に消灯しますが、ランプの消灯とグロープラグの発熱は関連がありません。
ランプ消灯後もキーが「グロー」の位置であれば発熱しています。
ランプの点灯時間は 5 秒です。

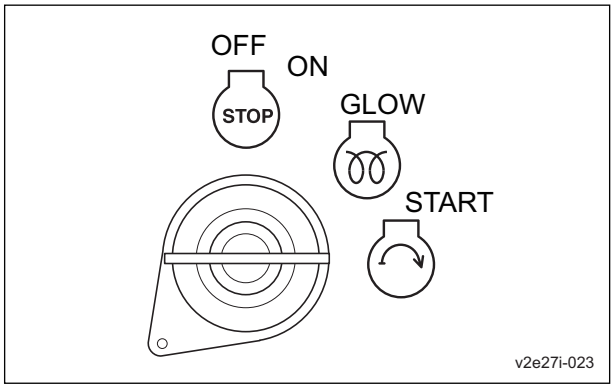
6. エンジンキーを「グロー」の位置にします。
7. グロープラグが発熱し、サーモスタートランプが点灯したことを確認してください。

⚠ 注意

エンジンキーを「START」位置から、「ON」の位置へ急激に戻すと、機器の損傷につながります。

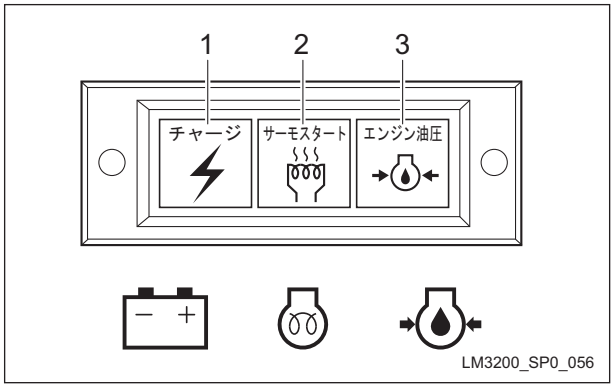
8. サーモスタートランプが消えたら、速やかにエンジンキーを「START」の位置にします。

9. スタータが回転し、エンジンが始動したらエンジンキーを「ON」の位置へゆっくりと戻します。



エンジン始動手順_002

10. チャージランプとエンジン油圧ランプが消えることを確認してください。
消えない場合は、エンジンを停止し、点検整備を行ってください。



エンジン始動手順_003

1	チャージランプ
2	サーモスタートランプ
3	オイルプレッシャーランプ

11. スロットルレバーを「Low」（かめマーク側）位置にして 1 － 2 分間、暖気運転します。
12. スロットルレバーを徐々に「High」（うさぎマーク側）へ動かします。

エンジン停止手順

1. 走行ペダルを中立にします。
2. 駐車ブレーキをかけます。
3. リール回転スイッチを「停止」の位置にします。
4. スロットルレバーを「Low」（かめマーク側）位置にして 1 － 2 分間、空運転します。
5. エンジンキーを「OFF」の位置にします。
6. エンジンが停止したことを確認してください。
7. エンジンキーを抜取ります。
8. 運転席から降ります。

安全装置について

本機には、エンジン始動・停止に対する安全装置が装着されています。

1. エンジンを始動するときは、以下の 4 つの条件が 1 つでも満たされていないと安全装置が働き、エンジンは始動しません。
   - シートに着座する。
   - 駐車ブレーキをかける。
   - リール回転スイッチを「停止」の位置にする。
   - 走行ペダルの位置を中立にする。
2. 駐車ブレーキをかけた状態で、エンジンをかけたままで運転席から離れるとき、以下の条件の場合は、安全装置が働き、エンジンが停止します。
   - 走行ペダルの位置が中立でない。（走行ペダルを踏んだ場合）
   - リール回転スイッチが「回転」位置にある。

警報装置について

本機には、オーバーヒートおよび油圧作動油量の警報装置が装着されています。

1. エンジン内部の水温が 115° C を超えると、ブザーが鳴ります。（断続音）
2. 油圧タンク内の作動油が規定量より約 2.0 dm^3 (2.0 L) 減ると、ブザーが鳴ります。（連続音）

各部の操作方法

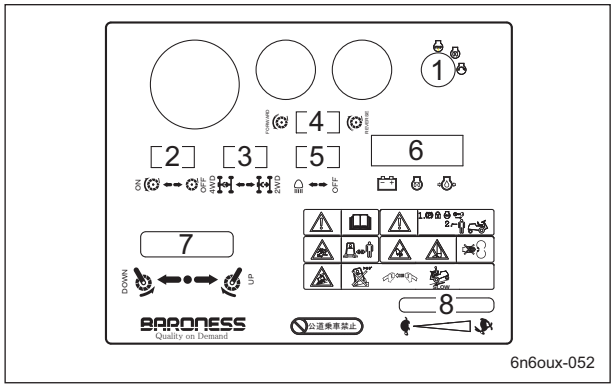
機械操作上の注意

> ⚠ 注意
>
> どのような場合にも、緊急停止ができるような速さで運転してください。

機械を離れるときの注意

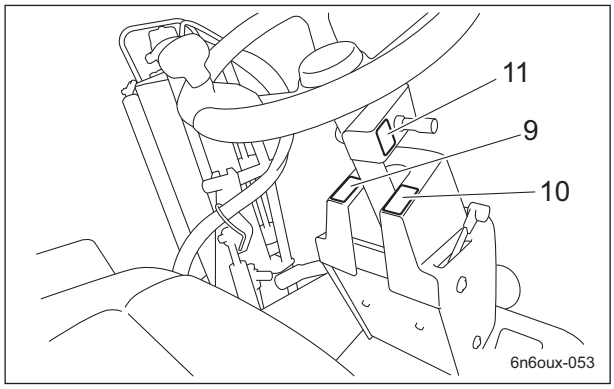
> ⚠ 注意
>
> ブレーキの効きが悪いときは、車輪止めを使用し、固定してください。

操作ラベル説明



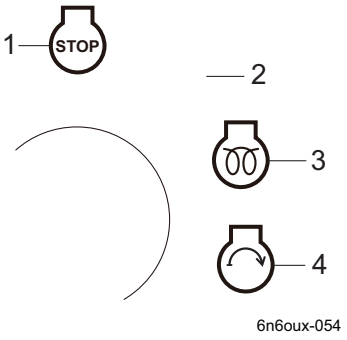
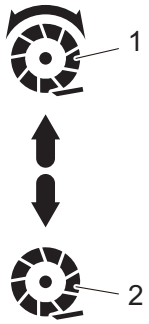
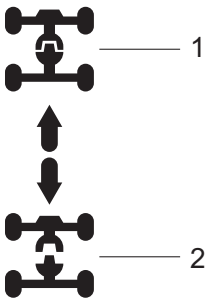
操作ラベル説明_001

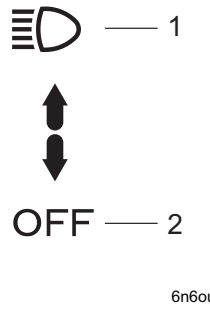
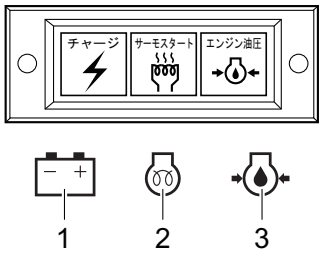
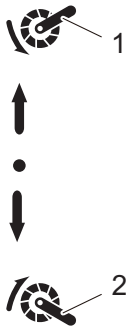
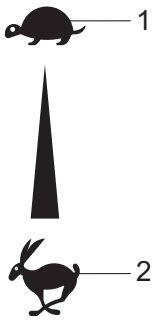
1	キースイッチマーク
2	リール回転スイッチマーク
3	2WD - 4WD 切換スイッチマーク
4	リール正転・逆転スイッチマーク
5	ライトスイッチマーク
6	パイロットランプマーク
7	モアユニット昇降レバーマーク
8	エンジン回転マーク

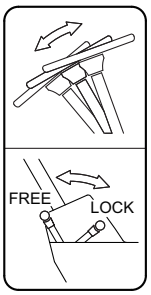
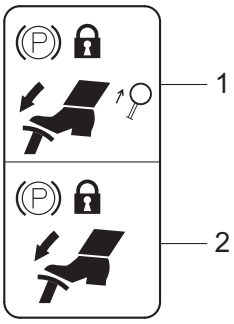
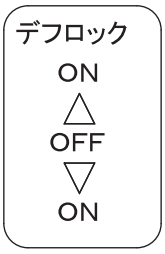


操作ラベル説明_002

9	チルトステアリングマーク
10	駐車ブレーキマーク
11	デフロックマーク

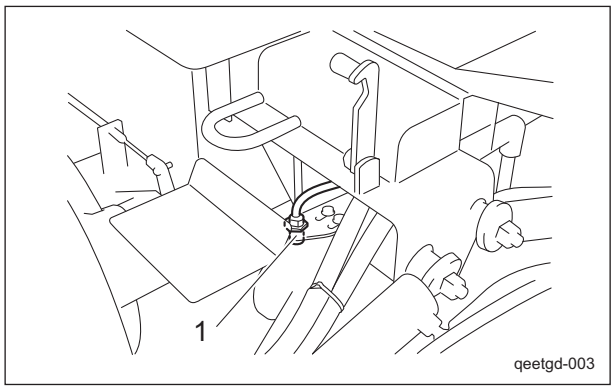
1	キースイッチマーク キースイッチの位置を示しています。 1. OFF 2. ON 3. GLOW 4. START	 6n6oux-054
2	リール回転スイッチマーク リール回転の回転・停止を示しています。 1. 回転 2. 停止	 6n6oux-042
3	2WD - 4WD 切換マーク 2WD - 4WD 切換を示しています。 1. 4WD 2. 2WD	 6n6oux-055
4	リール正転・逆転スイッチマーク リール回転の正転・逆転を示しています。 1. 正転 2. 逆転	 6n6oux-056

5	ライトスイッチマーク ライトの点灯・消灯を示しています。 1. 点灯 2. 消灯	 6n6oux-057
6	パイロットランプマーク パイロットランプの位置を示しています。 1. チャージランプ 2. サーモスタートランプ 3. オイルプレッシャーランプ	 6n6oux-064
7	モアユニット昇降レバーマーク モアユニットの上昇・下降を示しています。 1. 下降 2. 上昇	 6n6oux-041
8	エンジン回転マーク エンジン回転速度の低速・高速を示しています。 1. 低速 2. 高速	 6n6oux-019

9	K4203001350 チルトステアリングマーク ステアリングのチルトの方向と、位置の固定・解除を示しています。	 6n6oux-065
10	K4203001340 駐車ブレーキマーク 駐車ブレーキのロック・解除を示しています。 1. ロック 2. 解除	 6n6oux-013
11	K4203001360 デフロックマーク デフロックの切替を示しています。	 6n6oux-058

近接センサ

近接センサは、＃4、＃5 モアアーム支点部に 2 つあります。
＃4、＃5 モアユニットの上昇と下降の位置を検出し、リールカッターの回転・停止を行います。



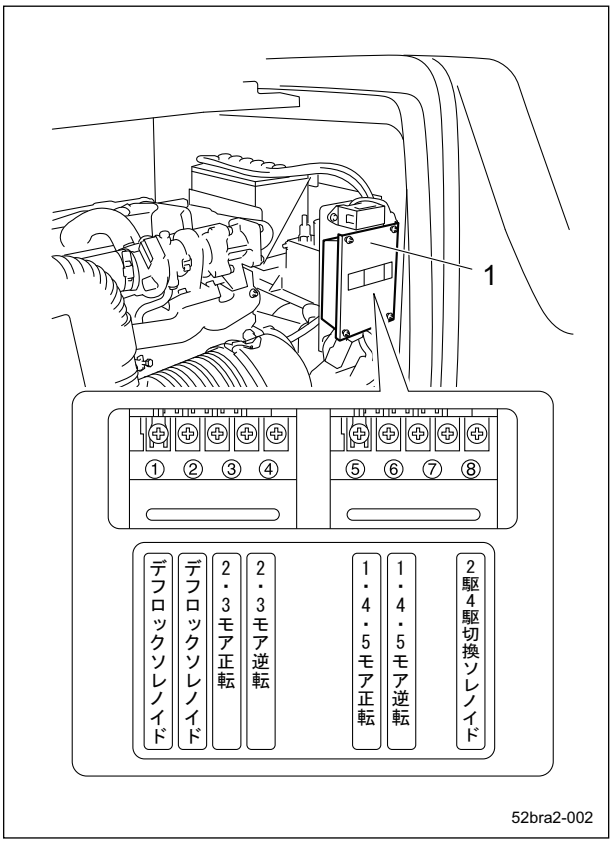
近接センサ_001

1	近接センサ

リレー

リレーボックスは、ボンネットカバー右前部にあります。
デフロック、リールカッターの回転、2WD － 4WD の切換の作動を制御しています。
LED の点灯により作動状態の確認ができます。

- LED（①②）はデフロックバルブを「ON」にしたときに点灯します。
- LED（③⑤）はリール回転スイッチが「ON」になり、モアユニットが降りているときに点灯します。
- LED（④⑥）はリール逆転スイッチが「ON」になり、モアユニットが降りているときに点灯します。
- LED（⑦）は使用していません。
- LED（⑧）は 2WD － 4WD 切換スイッチが「4WD」になったときに点灯し、4 駆になります。



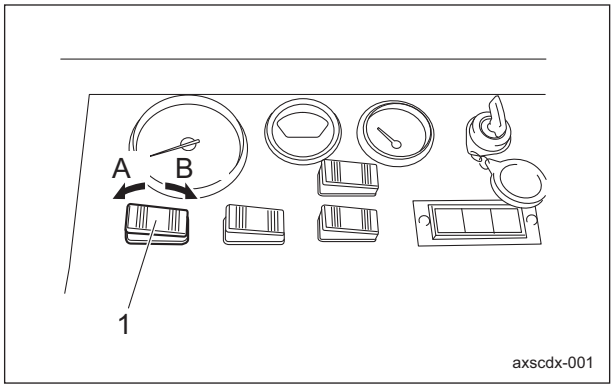
リレー_001

1	リレーボックス

リール回転スイッチ

> ⚠ 注意
>
> **リール回転スイッチは、刈込作業の直前に倒し、作業時以外の時は、必ず「停止」の位置にしてください。**

リール回転スイッチは、操作パネルにあり、モアユニットのリールカッターを回転させます。
全てのモアユニットのリールカッターは、「回転」側に倒すと刈込回転し、「停止」側に倒すと停止します。
参考：
モアユニットが上がった状態では、スイッチを「回転」側に倒してもリールカッターは回転しません。



リール回転スイッチ_001

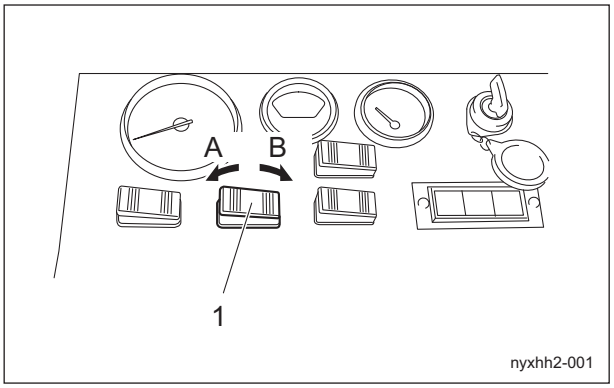
1	リール回転スイッチ
A	回転
B	停止

2WD-4WD 切換スイッチ

> ⚠ 注意
>
> **傾斜地では、必ず 4WD を使用してください。**

> ⚠ 注意
>
> **移動時にはリールカッターの回転を停止させ、モアユニットを上げてください。**

2WD - 4WD 切換スイッチは、操作パネルにあります。
スイッチを「2WD」側に押すと 2 輪駆動（前輪駆動）、「4WD」側に押すと 4 輪駆動になります。



2WD - 4WD 切換スイッチ_001

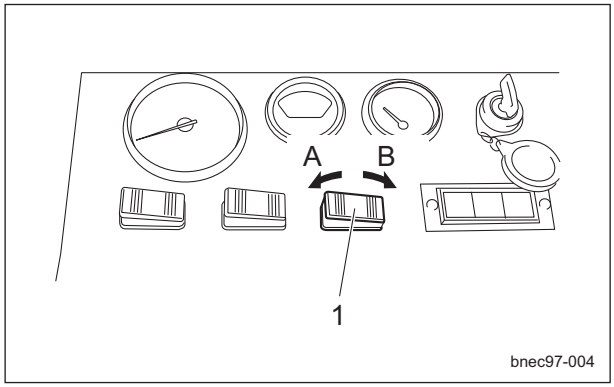
1	2WD - 4WD 切換スイッチ
A	4WD
B	2WD

ライトスイッチ

⚠ 警告

ライトは補助灯です。
夜間や視界の悪いときは走行､作業を行わないでください。

ライトスイッチは、操作パネルにあります。
スイッチを「ON」側に押すと点灯し、「OFF」側に押すと消灯します。



ライトスイッチ_001

1	ライトスイッチ
A	点灯
B	消灯

リール正転・逆転スイッチ

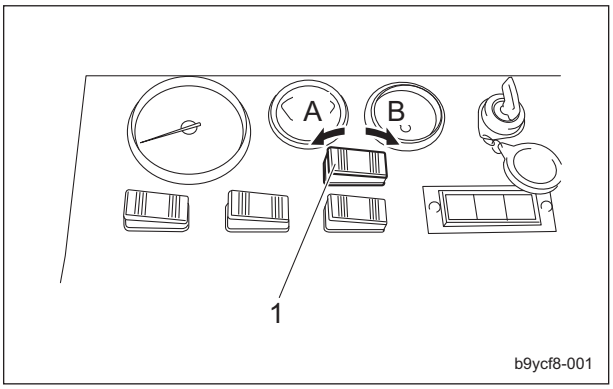
⚠ 注意

リールカッターが回転した状態で､「正転」「逆転」の切替はしないでください。
油圧機器が故障をおこす恐れがあります。

重要

リール回転スイッチを「回転」にしないと、リールカッターは回転しません。

リール正転・逆転スイッチは、操作パネルにあり、リールカッターの回転方向を選択するスイッチです。
全てのモアユニットのリールカッターは、「正転」側に倒すと刈込回転し、「逆転」側に倒すと逆転（バックラッピング回転）します。



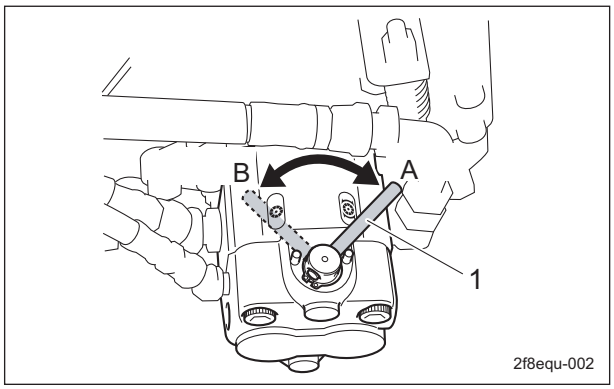
リール正転・逆転スイッチ_001

1	リール正転・逆転スイッチ
A	正転
B	逆転

リール回転・停止切換レバー

> ⚠ 注意
>
> **リール回転・停止切換レバーを動かす際は、必ずリール回転レバーを「停止」の位置にしてください。**

リール回転・停止切換レバーは、各モアユニットに取付けてあるリールモータにあり、刈込作業及び、バックラッピング作業を行う際に使用します。
刈込作業または、バックラッピング作業を行うモアユニットのレバーのみを「回転」の位置にし、その他のモアユニットのレバーは「停止」の位置にしてください。



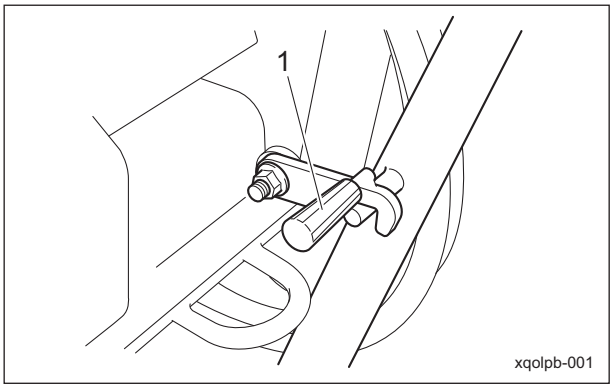
リール回転・停止切換レバー_001

1	リール回転・停止切換レバー
A	回転
B	停止

モアロックレバー（ラッチ）

> ⚠ 注意
>
> **モアロックレバー（ラッチ）を掛けた状態でモアユニット昇降レバーを操作しないでください。**

モアロックレバー（ラッチ）は、足元左右にあり、#4、#5 モアユニットを上げた状態で保管する際に使用します。
本機を保管する際は、モアロックレバー（ラッチ）をアームに掛けてください。



モアロックレバー（ラッチ）_001

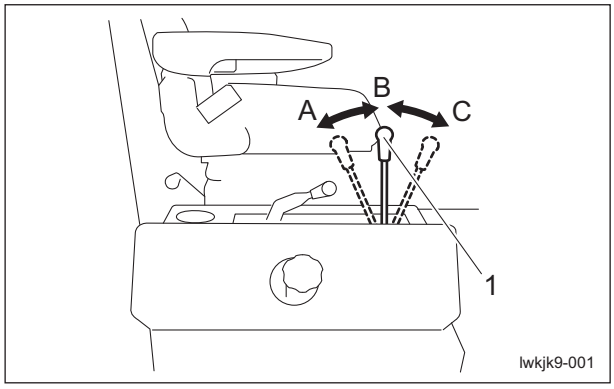
1	モアロックレバー（ラッチ）

モアユニット昇降レバー

> ⚠ 注意
>
> **モアユニットの昇降時には、周囲に人がいないことを確認してください。**

> ⚠ 注意
>
> **モアロックレバー（ラッチ）を掛けた状態でモアユニット昇降レバーを操作しないでください。**

モアユニット昇降レバーは操作パネルにあり、モアユニットをレバーで上昇、下降させます。
レバーを下降側（DOWN）に倒すと、モアが下降し、上昇側（UP）に倒すと、モアが上昇します。



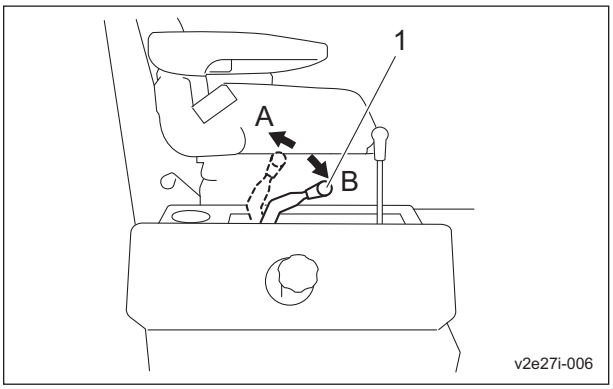
モアユニット昇降レバー_001

1	モアユニット昇降レバー
A	上昇
B	中立
C	下降

参考：
リール回転スイッチが「回転」の状態でも、モアユニットを上げるとリールの回転は停止します。

スロットルレバー

スロットルレバーは、運転席の右側にあり、エンジン回転速度の高低をレバーで調整します。
スロットルレバーは、「High」（うさぎマーク側）にするとエンジン回転速度が高くなり、「Low」（かめマーク側）にするとエンジン回転速度が低くなります。
参考：
出荷時のエンジン最高回転速度は、2,600 rpm に設定してあります。



スロットルレバー_001

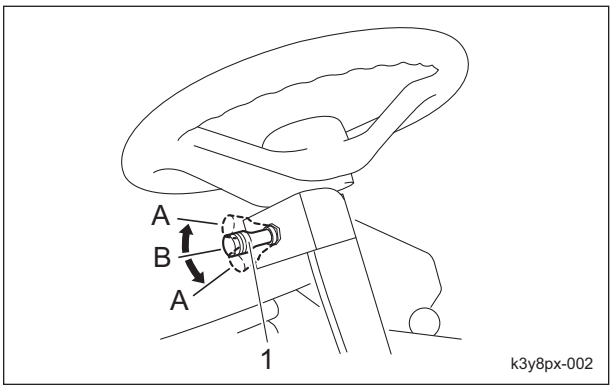
1	スロットルレバー
A	High（うさぎマーク側）
B	Low（かめマーク側）

デフロックスイッチ

参考：
この機能は仕様により、ない場合があります。

> ⚠ 注意
>
> **デフロックの操作は、必要なとき以外は絶対に行わないでください。**
> **油圧機器の故障を起こす恐れがあります。**

デフロックスイッチは、ハンドル右下にあり、前輪左右のデフロックを操作するスイッチです。
スイッチを上側または下側に倒すと「ON」になり、前輪がデフロック状態になります。
スイッチから手を離すと、スイッチは中立位置に戻って「OFF」になり、デフロックは解除されます。



デフロックスイッチ_001

1	デフロックスイッチ
A	ON
B	OFF

走行ペダル

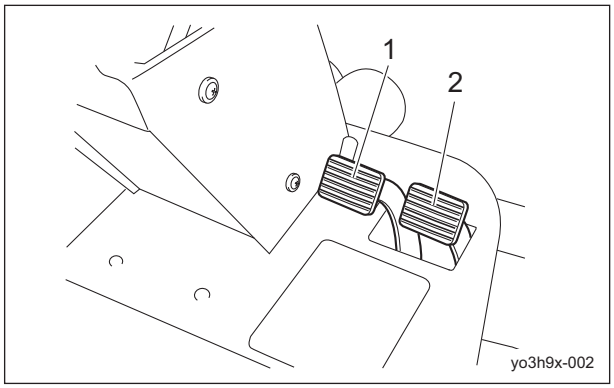
⚠ 警告

本機は、特殊自動車の型式認定を取得していませんので、一般道路は走行できません。

⚠ 注意

スピードが速いときは、走行ペダルから足を離してもすぐには停止しません。
必要に応じてブレーキを併用してください。

走行ペダルは、右足元にあり、2 ペダル方式を採用しています。
前進ペダル（内側）を踏むと前に進み、後進ペダル（外側）を踏込むと後に進みます。
ペダルの踏込み量により速さが変化します。
ペダルから足を離すと、機械は自動的に停止します。

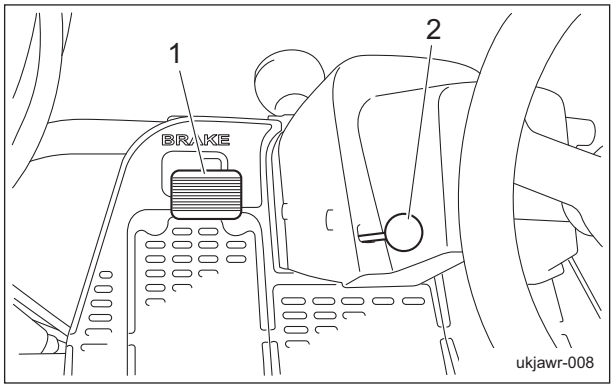


走行ペダル_001

1	前進ペダル
2	後進ペダル

ブレーキペダル

ブレーキペダルは、左足元にあります。
停止する際は、ブレーキペダルを強く踏込んでください。



ブレーキペダル_001

1	ブレーキペダル
2	駐車ブレーキレバー

駐車ブレーキレバー

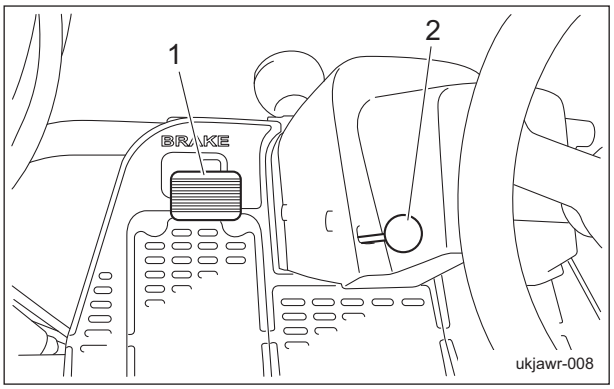
⚠ 注意

走行する際は、必ず駐車ブレーキを解除してから走行してください。
ブレーキや油圧機器の故障を起こす恐れがあります。

⚠ 注意

傾斜地での駐車は、絶対にしないでください。

駐車ブレーキレバーは、フロントカバーの左側にあります。
駐車時は、ブレーキペダルを踏み、駐車ブレーキレバーをいっぱいまで引き上げてください。
解除する際は、ブレーキペダルを再度踏込んでください。



駐車ブレーキレバー_001

1	ブレーキペダル
2	駐車ブレーキレバー

ボンネットカバー

⚠ 注意

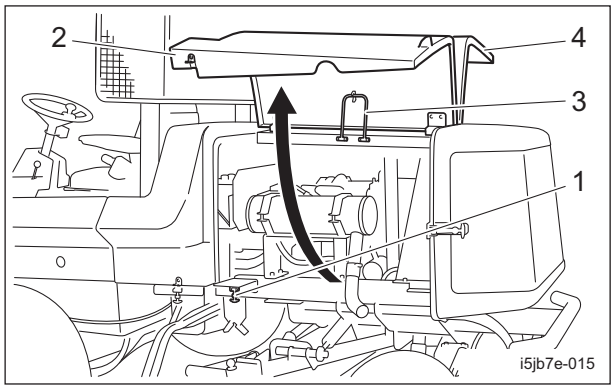
風が強い場所では、ボンネットを開けないでください。

⚠ 注意

ボンネットの開閉は、手を挟まないように注意してください。

1. ゴムキャッチを外し、ボンネットを引き上げます。

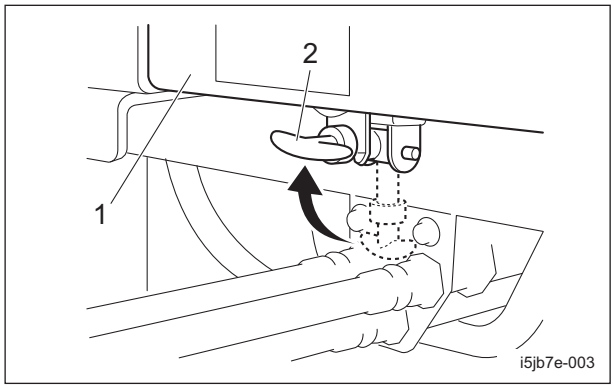
2. ボンネット支えをカバー内側の受け金に引っ掛けます。
   ボンネットが閉じないことを確認し、手を放してください。



ボンネットカバー_001

1	ゴムキャッチ
2	ボンネットカバー左
3	ボンネット支え
4	ボンネットカバー右

3. ボンネットを閉じる際は、ボンネット支えを受け金から外し、ゆっくりと閉じます。
4. ゴムキャッチを確実にはめてください。



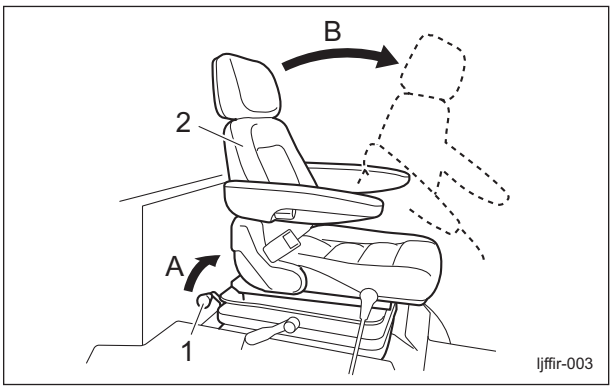
ボンネットカバー_002

1	ボンネット
2	ゴムキャッチ

シート下カバー

> ⚠ 注意
>
> カバーの開閉は、手を挟まないように注意してください。

1. ハンドルを一番立てた状態にします。
2. シートの前後調整を一番後ろにします。
3. シートの後にあるレバーを引上げ、ロックを外します。



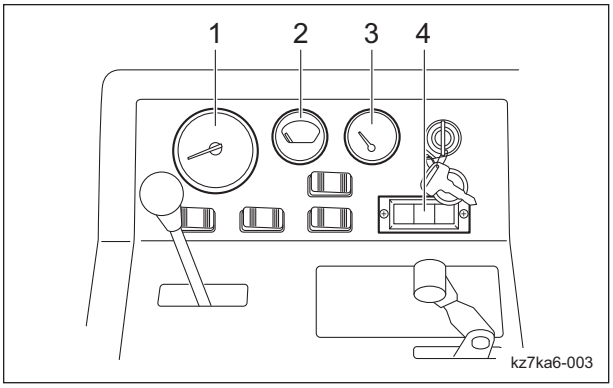
シート下カバー_001

1	レバー
2	シート
A	引上げる
B	倒す

4. シートを前に倒し、カバーを開けてください。
   閉じる際は、ゆっくりと下ろしてください。

各部の計器

操作パネルの計器説明

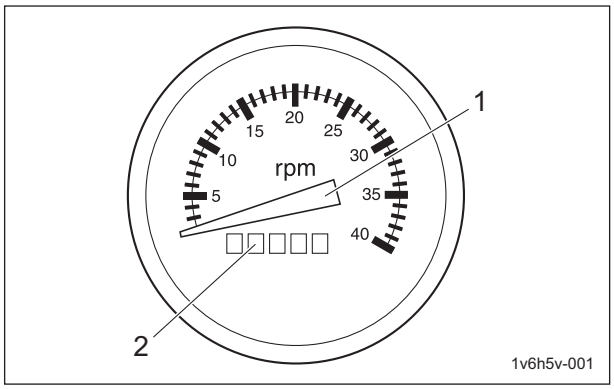


操作パネルの計器説明_001

1	タコメータ・アワーメータ
2	水温計
3	燃料計
4	パイロットランプ（チャージランプ・サーモスタートランプ・オイルプレッシャランプ）

タコメータ・アワーメータ

タコメータ・アワーメータは、操作パネルにあります。
タコメータは、エンジンの回転速度を表示します。エンジンフライホイール部の回転センサと接続されており、回転センサから出力された信号を回転数で表示します。
アワーメータは、エンジンの総運転時間を表示します。
6 分経過毎に一目盛（白地に黒数字）上がり、一時間経過毎に次の目盛（黒字に白数字）が一目盛上がります。

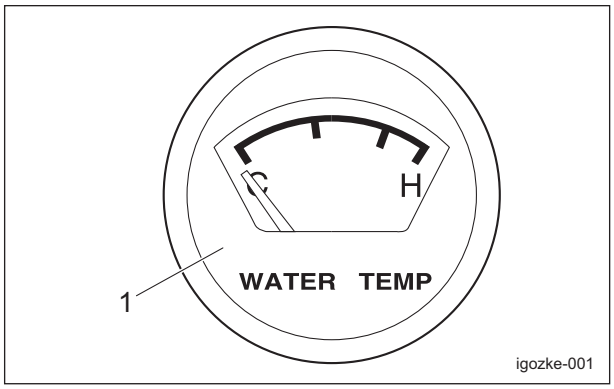


タコメータ・アワーメータ_001

1	タコメータ
2	アワーメータ

水温計

水温計は、操作パネルにあります。
エンジン内部の水温を示す計器です。
運転中に水温計が「H」付近まで上昇した場合は、オーバーヒート状態です。
エンジンを無負荷にし、アイドリング状態で 5 分間運転した後、エンジンを停止して点検・整備をしてください。
水温が 115° C を超えると、ブザーが鳴ります。(断続音)

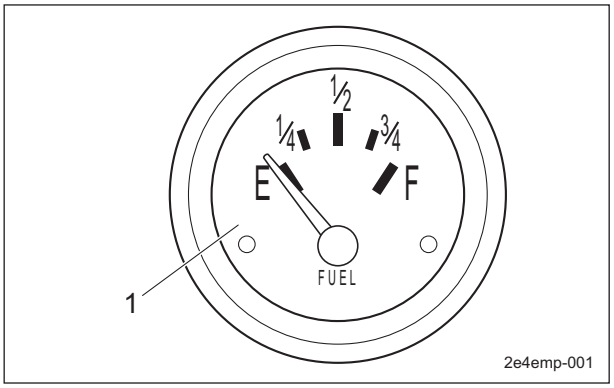


水温計_001

1	水温計

燃料計

燃料計は、操作パネルにあります。
燃料タンク内の燃料の量を示す計器です。



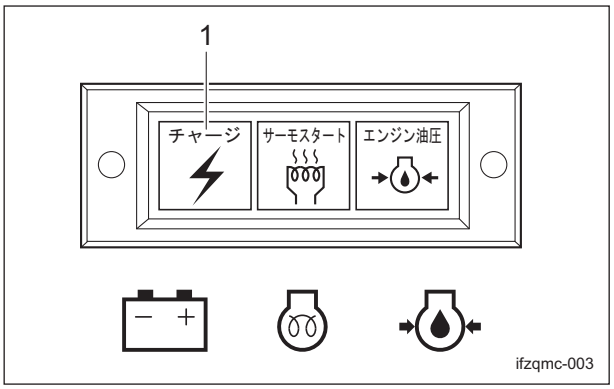
燃料計_001

1	燃料計

パイロットランプ

チャージランプ

チャージランプは、操作パネルにあるパイロットランプ内左側にあります。
エンジン始動前にエンジンキーの位置「ON」で点灯し、始動後にオルタネータが正常に運転されると消灯します。
運転中に点灯した場合は、すぐにエンジンを停止し、点検・整備してください。

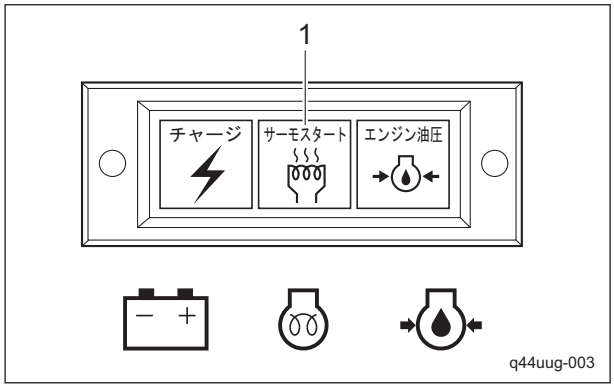


チャージランプ_001

1	チャージランプ

サーモスタートランプ

サーモスタートランプは、操作パネルにあるパイロットランプ内中央にあります。
エンジンキーの位置が「グロー」のとき、グロープラグの発熱と同時に点灯します。
グローランプタイマにより、サーモスタートランプの点灯が制御され、設定時間経過後に消灯します。
点灯時間は、予熱に必要な目安であり、一定時間（5 秒）の設定です。

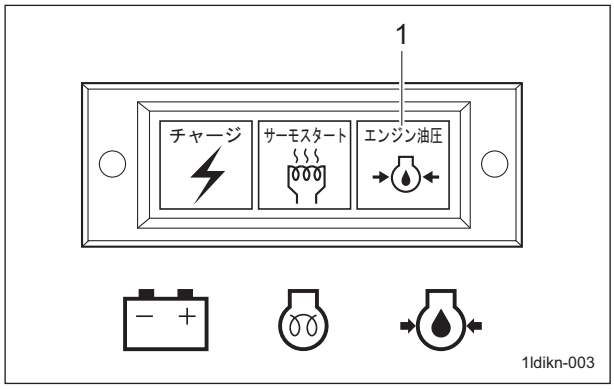


サーモスタートランプ_001

1	サーモスタートランプ

オイルプレッシャランプ

オイルプレッシャランプは、操作パネルにあるパイロットランプ内右側にあります。
エンジン始動前にエンジンキーの位置「ON」で点灯し、始動後にエンジン油圧（オイルプレッシャ）が正常に発生すると消灯します。
運転中に点灯した場合は、すぐにエンジンを停止し、点検・整備してください。



オイルプレッシャランプ_001

1	オイルプレッシャランプ

移動

移動操作

1. エンジンを始動します。(「エンジン始動手順」(Page 4-22)参照)
2. 全てのモアユニットを上昇させ、#4・#5 モアユニットのモアロックレバー（ラッチ）を掛けます。
3. ブレーキペダルを踏み、駐車ブレーキレバーを解除します。
4. 走行ペダルをゆっくりと踏込んでください。
5. 発進し、移動できます。

牽引方法

エンジントラブル等で自走できなくなった場合は、牽引による移動ができます。

⚠ 注意

牽引は、低速で十分注意して行ってください。

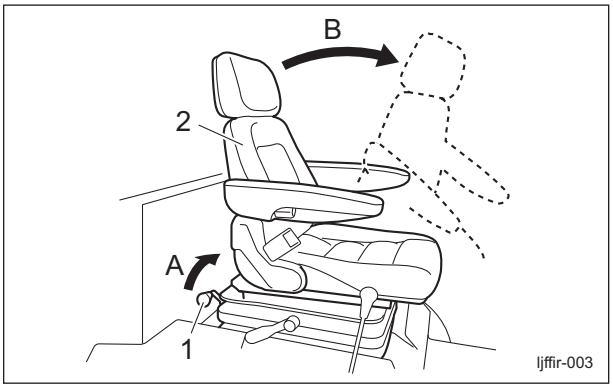
⚠ 注意

牽引時以外は、アンロードバルブに触れないでください。

⚠ 注意

エンジンは、必ずアンロードバルブを閉じてから始動してください。

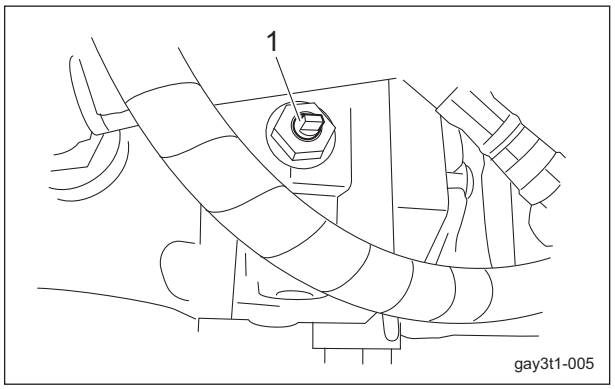
1. エンジンを停止します。(「エンジン停止手順」(Page 4-23)参照)
2. 駐車ブレーキをかけて、輪止めをします。
3. ハンドルを一番立てた状態にし、シートの前後調整を一番後ろにします。
4. シートの後にあるレバーを上に引上げロックを外し、シートを前に倒し、カバーを開けます。



牽引方法_001

1	レバー
2	シート
A	引上げる
B	倒す

5. 油圧ポンプ横にあるアンロードバルブを 90 度回転させ（縦方向にする）、開きます。



牽引方法_002

1	アンロードバルブ

6. 輪止めを外し、ブレーキペダルを踏込んで、駐車ブレーキを解除します。
7. ゆっくりと牽引します。

刈込み

刈込操作

⚠ 警告

急発進・急停車は、絶対行わないでください。危険な上、油圧機器を破損したり、油漏れの原因になることがあります。

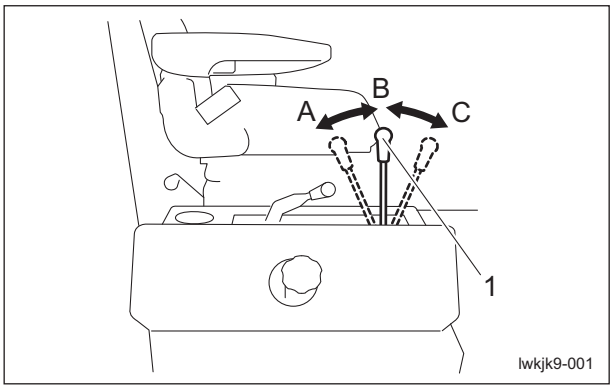
⚠ 注意

刈込作業は､必ず場所にあった速さで行ってください。
凸凹面の刈込作業は、エンジン回転は一定のまま、刈込み速さを遅くして行ってください。

⚠ 注意

リール回転は、モアユニットの位置を感知して「入」「切」しています。
モアユニットが完全に上がる前にモアユニット昇降レバーの操作をやめると､リール回転が停止しない場合がありますので、注意してください。

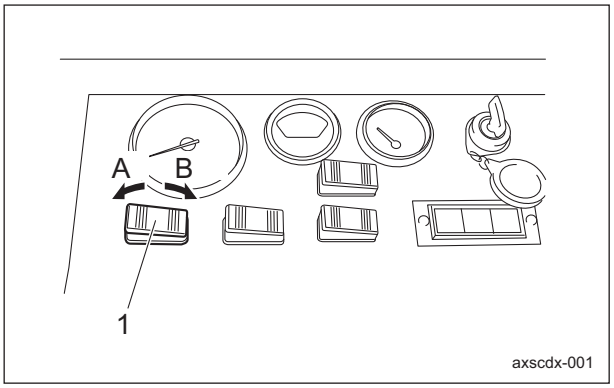
1. エンジンを始動します。(「エンジン始動手順」(Page 4-22)参照)
2. 全てのモアユニットを上昇させます。
3. ブレーキペダルを踏込んで、駐車ブレーキを解除します。
4. スロットルレバーを「High」（うさぎマーク側）にし、エンジン回転を MAX にします。
5. 刈込操作直前に#4･#5 モアユニットのモアロックレバー（ラッチ）を解除します。
6. モアユニット昇降レバーを下降側（DOWN）に倒し、モアユニットを下降させます。



刈込操作_001

1	モアユニット昇降レバー
A	上昇
B	中立
C	下降

7. リール回転スイッチを「回転」側にし、全てのモアユニットのリールカッターを回転させます。



刈込操作_002

1	リール回転スイッチ
A	回転
B	停止

8. 走行ペダルを踏み、作業を始めます。
参考：
作業中はモアユニットの昇降に連動し、リールカッターも回転・停止します。

運搬

運搬方法

トラックやトレーラに積載して運搬する場合は、進行方向に対して本機を前進で積込み、降ろす場合は後進で行ってください。
本機にルーフが取付いている場合は、ルーフを取外してください。
ルーフが風圧で破損する恐れがあります。

メンテナンス

メンテナンス上の注意.....Page 5-2

メンテナンススケジュール.....Page 5-3

規定値.....Page 5-4
主な消耗部品.....Page 5-4

ジャッキアップ.....Page 5-5

ジャッキアップについて.....Page 5-5
ジャッキアップポイント.....Page 5-5

グリースアップ.....Page 5-6

グリースアップについて.....Page 5-6
グリースアップ位置.....Page 5-6

メンテナンス・モア..... Page 5-12

リールカッターのバックラッピング.....Page 5-12

メンテナンス・本体..... Page 5-14

#2、#3 モアユニットの旋回.....Page 5-14
タイヤの脱着.....Page 5-15
ベルトの張り調整.....Page 5-16
ブレーキの調整..... Page 5-16
ピストンポンプの中立位置の調整.....Page 5-18
ヒューズの交換..... Page 5-19

長期保管..... Page 5-19

長期保管について.....Page 5-19

メンテナンス

メンテナンス上の注意

⚠ 注意

実施するメンテナンスを熟知してから行ってください。

⚠ 注意

メンテナンスをする際に必要な工具は、目的にあったものを使用してください。

⚠ 注意

常に安全に、最高の性能でお使い頂くために、交換部品やアクセサリは BARONESS 純正部品をお求めください。
純正部品以外の部品をご使用になった場合、製品保証を受けられなくなる場合がありますので、ご注意ください。

メンテナンススケジュール

LM3200
メンテナンススケジュールは、以下の通りです。
○・・・点検、調整、補給、清掃
●・・・交換(初回)
△・・・交換

	メンテナンス項目	作業前	作業後	8h 毎	50h 毎	100h 毎	200h 毎	250h 毎	400h 毎	500h 毎	1 年毎	2 年毎	4 年毎	備考
エンジン	各部の締付	○												
	燃料	○												
	エアクリーナ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	エンジンオイル	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	エンジンオイルフィルタ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	点火プラグ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ラジエータ	○												
	オイルクーラ	○												
	冷却水	○			△									
	ファンベルト	○									△			
	バッテリ	○										△		
	バッテリ液	○												
	外観清掃	○												
本体	各部の締付	○												
	インターロックシステム	○												
	エマージェンシースイッチ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	電気配線										○			
	ナイフ	○												
	ステアリングチェン	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	刈込（ブラシ）高さ	○												
	グリースアップ・注油				○									
	タイヤ	○												
	ゴムクローラ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	Ｖベルト	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ブレーキ	○												
	ワイヤ	○					△							
	カバー	○												
	油漏れ	○												
	油圧作動油	○				●				△				100h (初回)
	油圧オイルフィルタ					●				△				100h (初回)
	油圧モータオイル	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	パワーユニットオイル	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ミッションオイル	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	油圧ホース（可動部）	○										△		

メンテナンス

メンテナンス項目		作業前	作業後	8h 毎	50h 毎	100h 毎	200h 毎	250h 毎	400h 毎	500h 毎	1 年毎	2 年毎	4 年毎	備考
本体	油圧ホース（固定部）	○											△	
	エアクリーナ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	電磁ポンプフィルタ	○					△							
	燃料ストレーナ					○					△			
	燃料パイプ	○												
	外観清掃	○												
機種別	エンジンオイル	○			●	△								50h (初回)
	エンジンオイルフィルタ	○			●	△								50h (初回)
	セジメンタ				○									
	エアクリーナ	○												
	エアクリーナエレメント						△				△			いずれか早い方

消耗品については、保証値ではありません。
ステアリングシリンダ用ホースは、2 年毎に交換してください。

規定値

燃料タンク容量		51.0 dm^3（51.0 L）	
油圧タンク容量		44.0 dm^3（44.0 L）	シェルテラス S2M46 相当品
エンジンオイル容量		10.0 dm^3（10.0 L）	夏季 SAE30、冬季 SAE20
冷却水容量		12.0 dm^3（12.0 L）	リザーブタンク（1.0 L）含む
前輪タイヤ	タイプ_F	140 kPa（1.4 kg f/cm^2）	31 x 13.50 - 15
	タイプ_R	140 kPa（1.4 kg f/cm^2）	31 x 15.50 - 15
後輪タイヤ		140 kPa（1.4 kg f/cm^2）	20 x 12.00 - 10
カッター調節スプリング		40.0 mm（1.575 in.）	スプリングコイル長さ

主な消耗部品

部品名	コード番号
ファンベルト	PF17112-9701-2
オイルエレメント	PF16414-3243-4
エアクリーナエレメント	PFR1401-4227-0
フューエルフィルタエレメント	PF15221-4317-0
サクションフィルタ	K3413000040
油圧カートリッジフィルタ	K3410000030
油圧オイル（20 L 缶）	K2913100200
スロットルワイヤ	K1110168020
ブレーキワイヤ右	K1120238000
ブレーキワイヤ左	K1120205500
ブレーキ用パッドキット	Y328-2845

ジャッキアップ

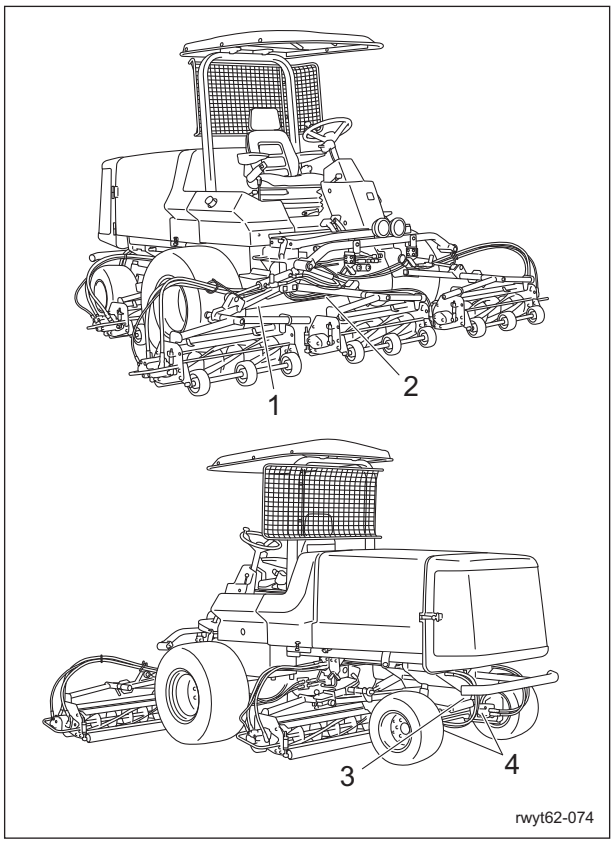
ジャッキアップについて

⚠ 警告

タイヤ交換等の整備や修理を行う場合は、必ず輪止め等をして、本機が動かないようにしてください。機械をコンクリート等の堅い平らな床に確実に駐車し、機械をジャッキアップする前に安全作業の妨げになる障害物を取除いてください。必要に応じ、適切なチェーンブロックやホイスト、及びジャッキを使用してください。持上げている機械は、ジャッキスタンドや適切なブロックを使用し、確実に支えてください。ジャッキスタンドや適切なブロックで機械を確実に支えられていない場合は、機械が動いたり、落ちたりする恐れがあります。人身事故の原因となります。

機械をジャッキアップする場合は、ジャッキアップポイントに記載してある位置で行ってください。指示された位置以外では、ジャッキアップしないでください。フレームや部品が破損する恐れがあります。

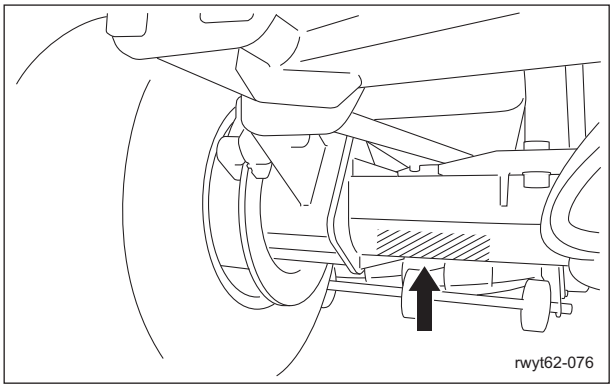
ジャッキアップポイント



ジャッキアップポイント_001

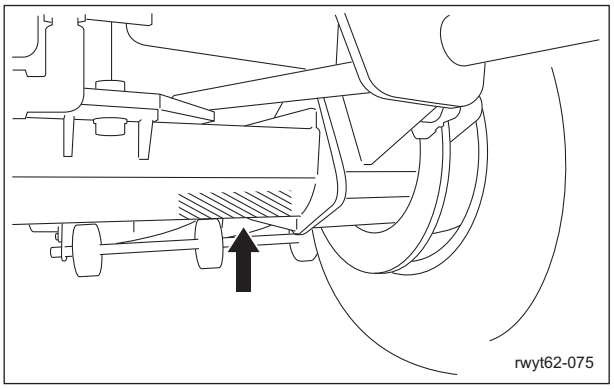
	ジャッキアップポイント
1	前部右側フレーム
2	前部左側フレーム
3	ピボット中央部
4	後輪モータ下部

1. 前部右側フレーム



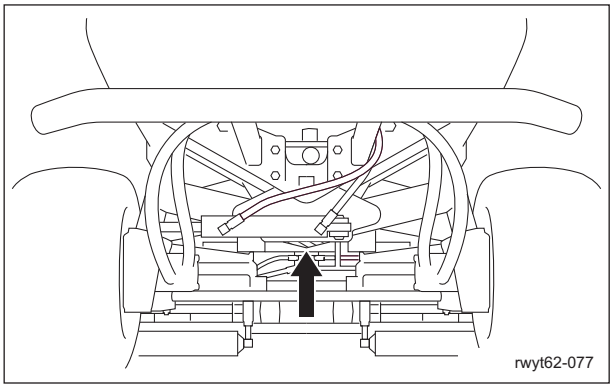
ジャッキアップポイント_002

2. 前部左側フレーム



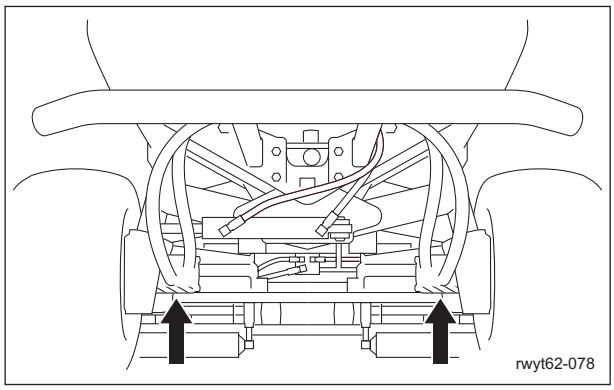
ジャッキアップポイント_003

3. ピボット中央部



ジャッキアップポイント_004

4. 後輪モータ下部
   2 箇所あります。



ジャッキアップポイント_005

グリースアップ

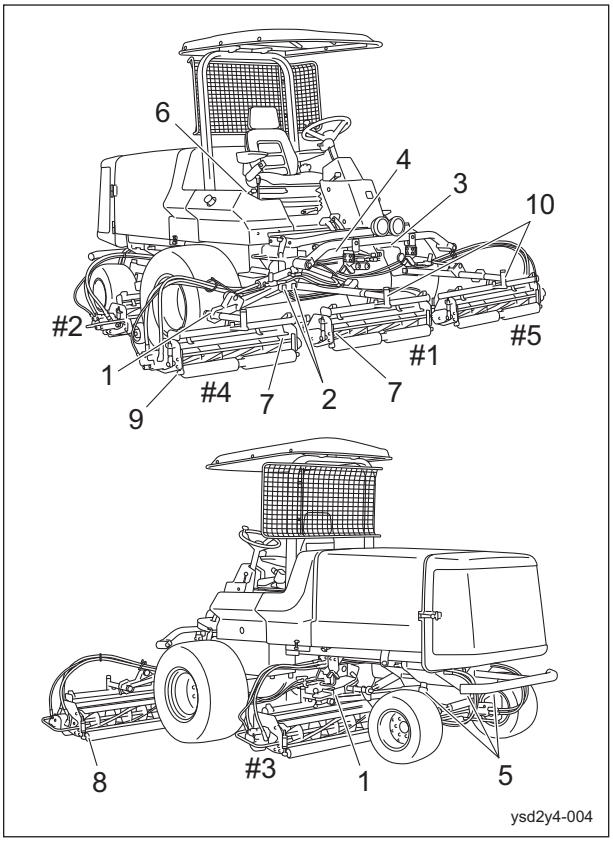
グリースアップについて

可動部がグリース切れにより、固着したり、破損したりする可能性がありますので、グリースアップの必要性があります。
メンテナンススケジュールに従って、ウレア系 2 号グリースでグリースアップしてください。
その他指定のグリース、潤滑油を使用する場所は、「グリースアップ位置」に記載されています。
指定のグリース、潤滑油でグリースアップしてください。

グリースアップ位置

タイプ_F

次の場所にグリースニップルが取付けてあります。
50 時間毎にグリースアップしてください。

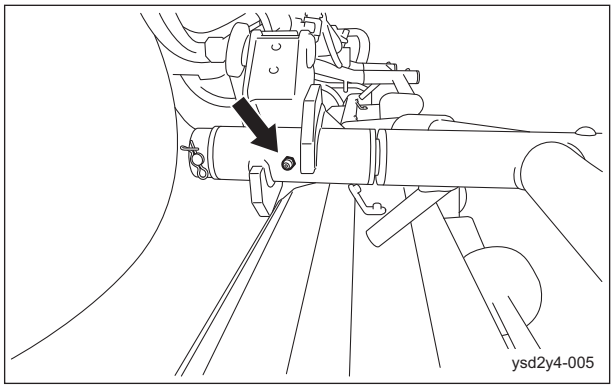


タイプ_F_001

	部位	注油箇所数
1	モアアーム支点部	5
2	リフトアーム支点部	5
3	ブレーキレバー軸部	2
4	走行ペダル軸支点部	2
5	ピボット部	3
6	中立出し部	2
7	リールハウジング部	5
8	後ローラー部	10
9	前ローラー部	10
10	モアユニット支点部	5

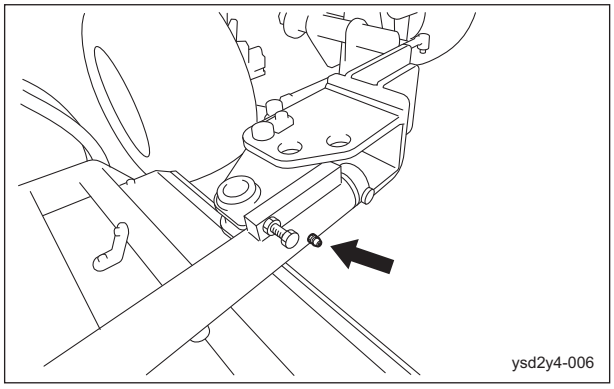
1. モアアーム支点部
   各モアユニットを連結しているアーム部に 1 箇所ずつあります。
   #2､3 モアユニットをグリースアップするときは、モアユニットを旋回させた状態で行ってください。
   (「#2、#3 モアユニットの旋回」(Page 5-14) 参照)

   #1、4、5 モアユニット



タイプ_F_002

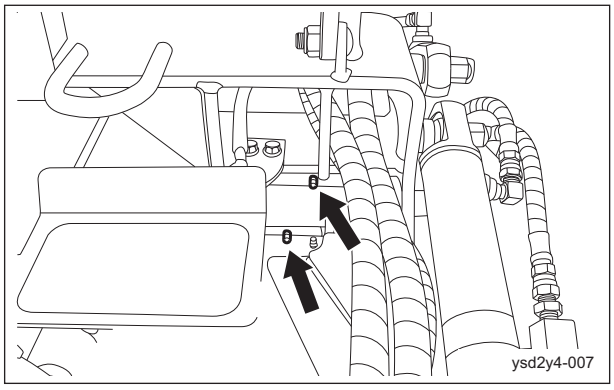
   #2、3 モアユニット



タイプ_F_003

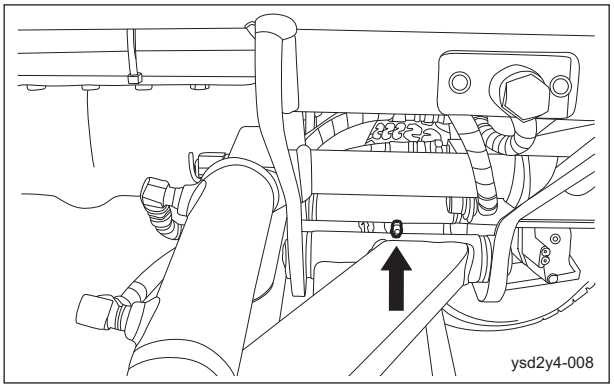
2. リフトアーム支点部
   各モアユニットを連結しているアーム部に 1 箇所ずつあります。
   リフトアーム支点部をグリースアップするときは、モアユニットを下ろした状態で行ってください。

   #1、4 モアユニット



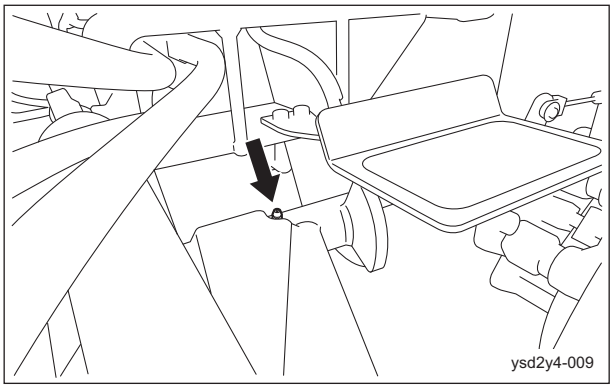
タイプ_F_004

   #2、3 モアユニット



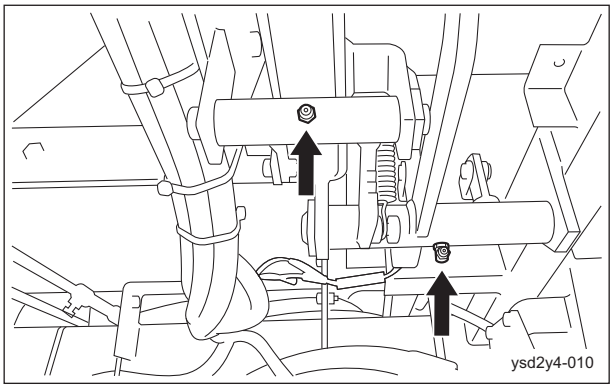
タイプ_F_005

   #5 モアユニット



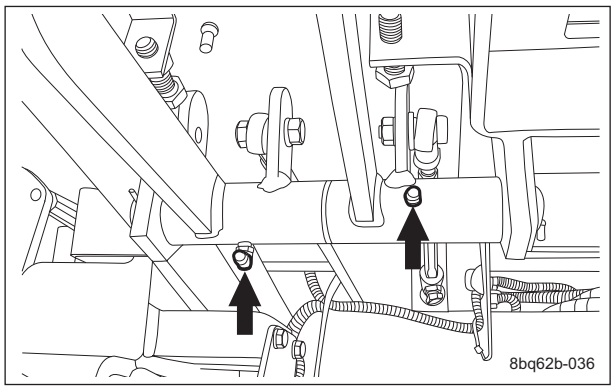
タイプ_F_006

3. ブレーキレバー軸部
   2 箇所あります。



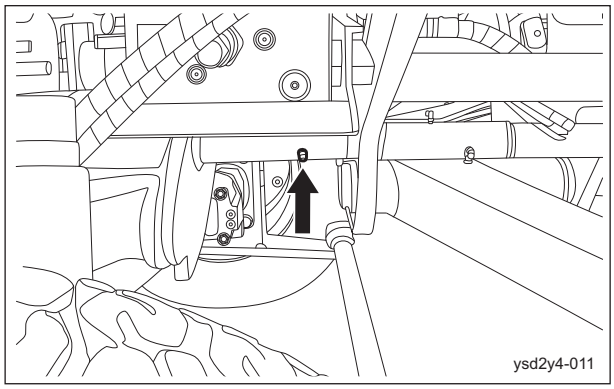
タイプ_F_007

4. 走行ペダル軸支点部
   2 箇所あります。



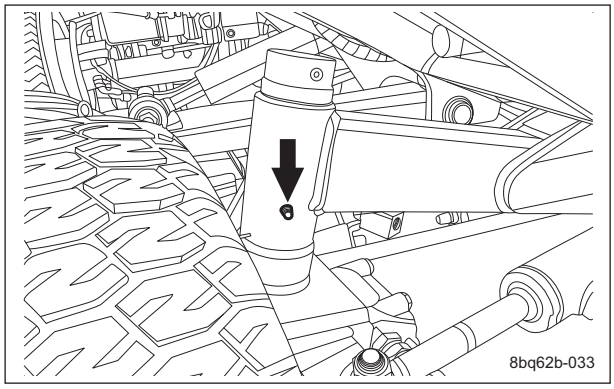
タイプ_F_008

5. ピボット部
   後輪中央



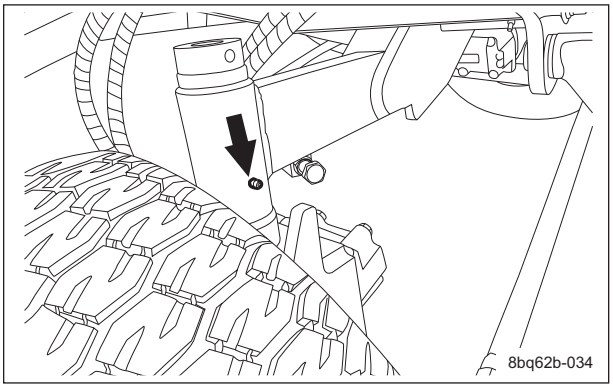
タイプ_F_009

後輪左側



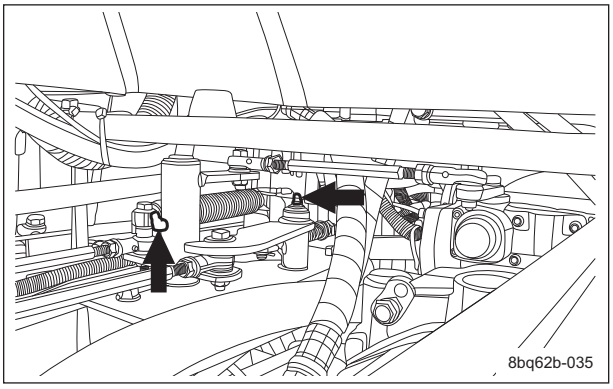
タイプ_F_010

後輪右側



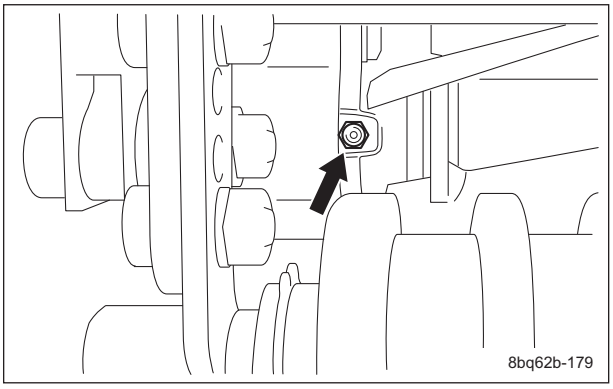
タイプ_F_011

6. 中立出し部
   2 箇所あります。



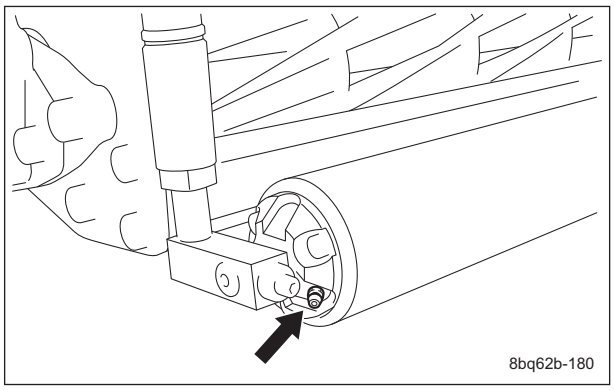
タイプ_F_012

7. リールハウジング部
   各モアユニットのリールハウジングに 1 箇所ずつあります。



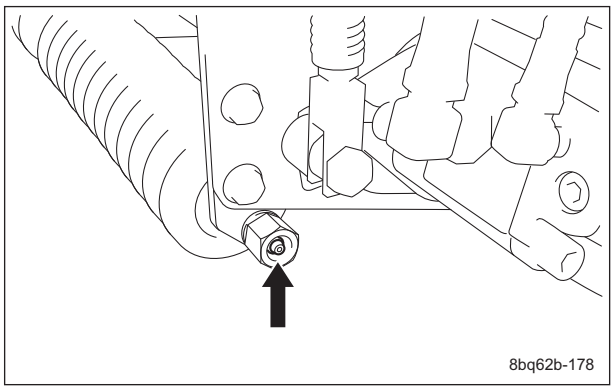
タイプ_F_013

8. 後ローラー部
   各モアユニットに左右 1 箇所ずつあります。



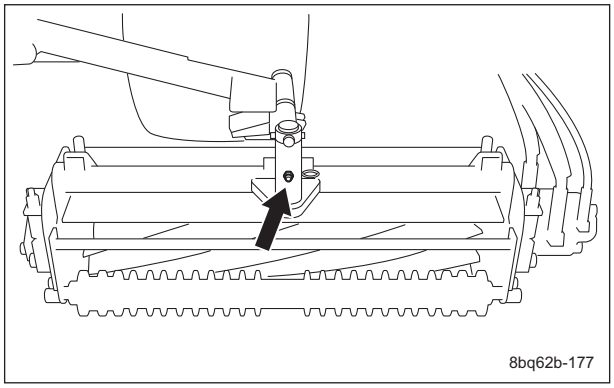
タイプ_F_014

9. 前ローラー部
   各モアユニットに左右 1 箇所ずつあります。



タイプ_F_015

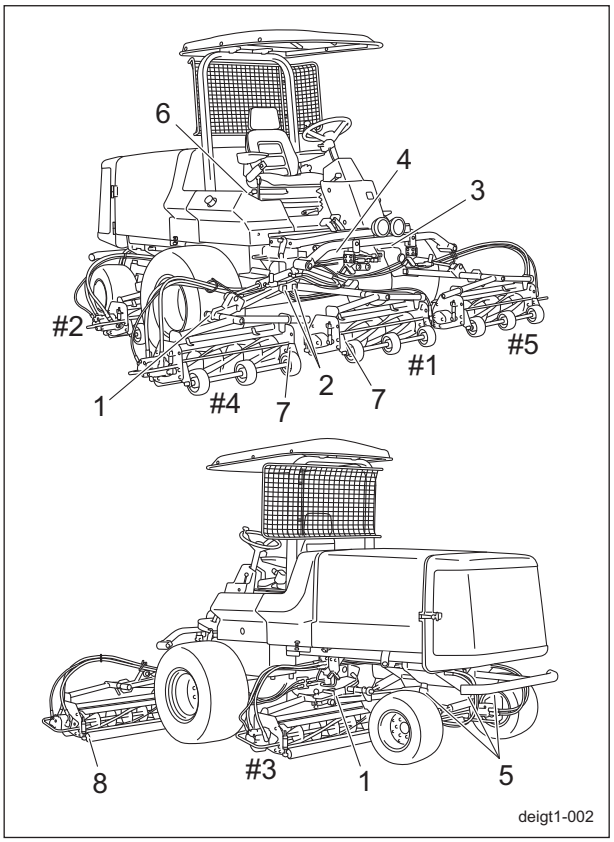
10. モアユニット支点部
    各モアユニットに 1 箇所ずつあります。



タイプ_F_016

タイプ_R

次の場所にグリースニップルが取付けてあります。
50 時間毎にグリースアップしてください。

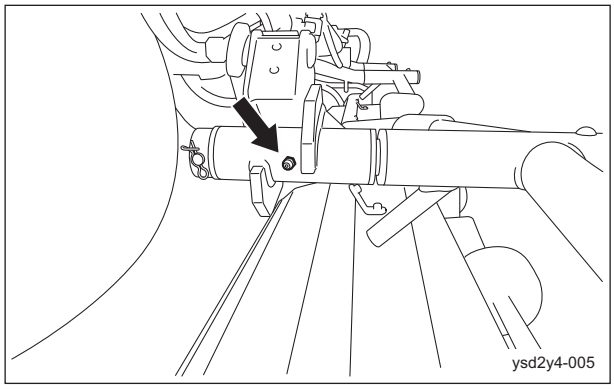


タイプ_R_001

	部位	注油箇所数
1	モアアーム支点部	5
2	リフトアーム支点部	5
3	ブレーキレバー軸部	2
4	走行ペダル軸支点部	2
5	ピボット部	3
6	中立出し部	2
7	リールハウジング部	5
8	後ローラー部	10

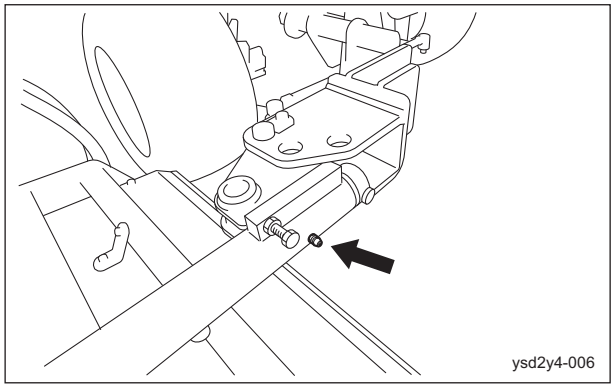
1. モアアーム支点部
   各モアユニットを連結しているアーム部に 1 箇所ずつあります。
   #2、3 モアユニットをグリースアップするときは、モアユニットを旋回させた状態で行ってください。
   (「#2、#3 モアユニットの旋回」(Page 5-14) 参照)

   #1、4、5 モアユニット



タイプ_R_002

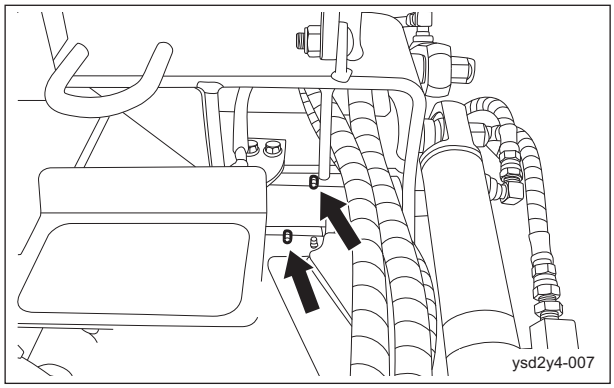
   #2、3 モアユニット



タイプ_R_003

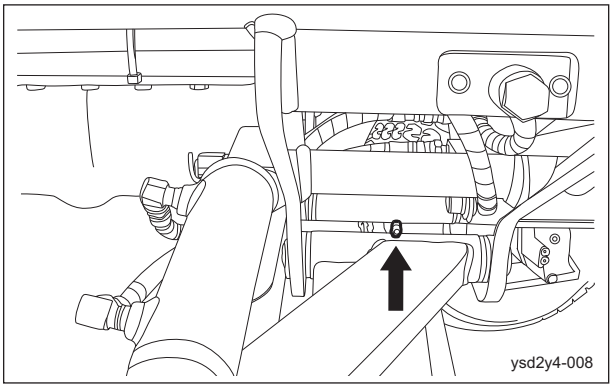
2. リフトアーム支点部
   各モアユニットを連結しているアーム部に 1 箇所ずつあります。
   リフトアーム支点部をグリースアップするときは、モアユニットを下ろした状態で行ってください。

   #1、4 モアユニット



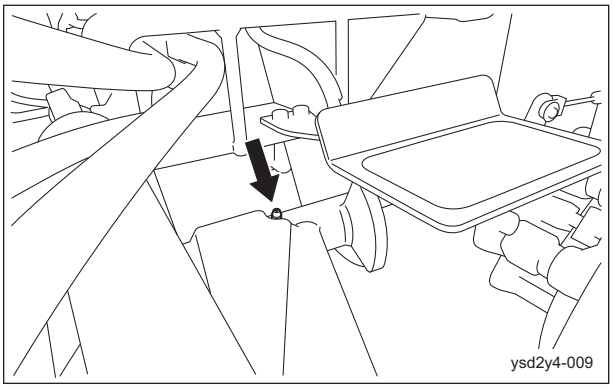
タイプ_R_004

   #2、3 モアユニット



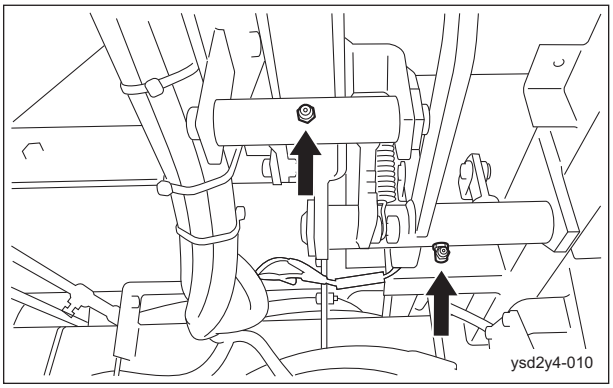
タイプ_R_005

   #5 モアユニット



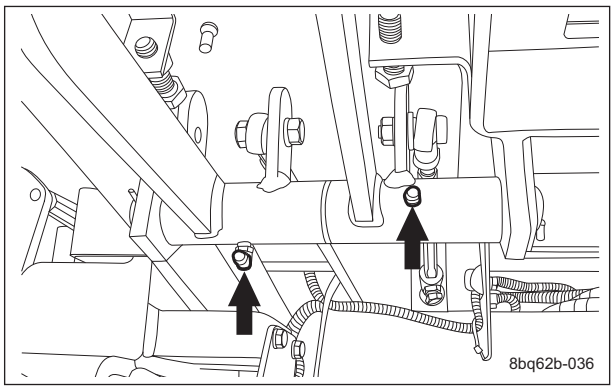
タイプ_R_006

3. ブレーキレバー軸部
   2 箇所あります。



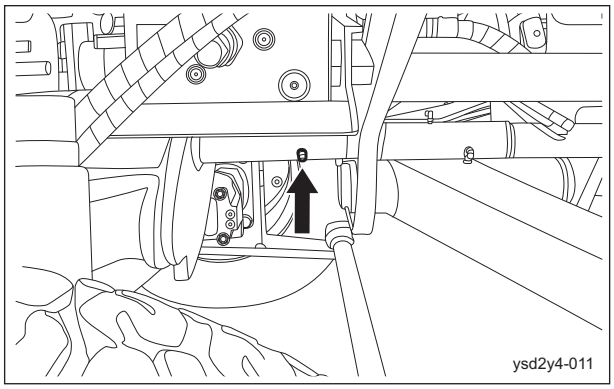
タイプ_R_007

4. 走行ペダル軸支点部
   2 箇所あります。



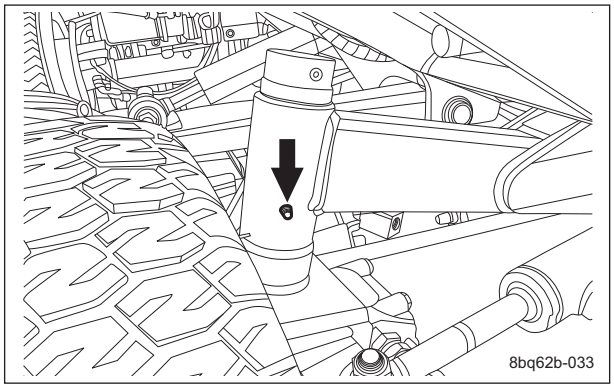
タイプ_R_008

5. ピボット部
   後輪中央



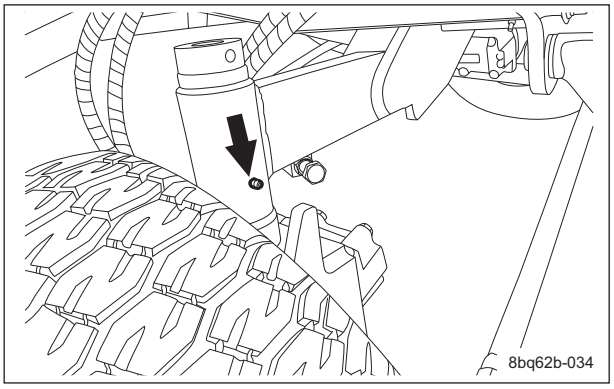
タイプ_R_009

後輪左側



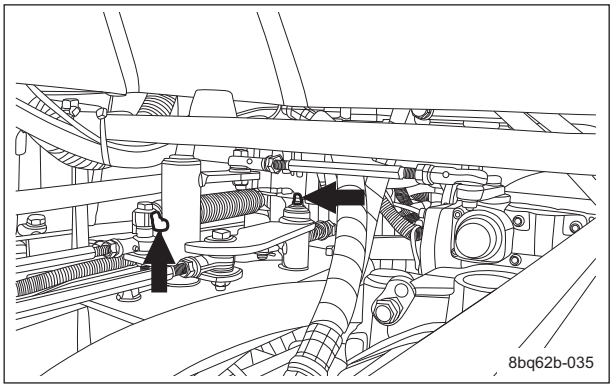
タイプ_R_010

後輪右側



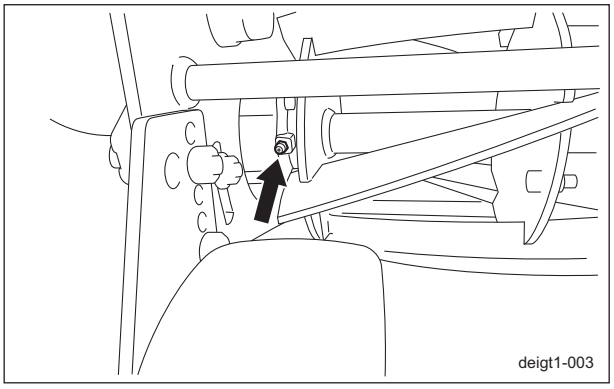
タイプ_R_011

6. 中立出し部
   2 箇所あります。



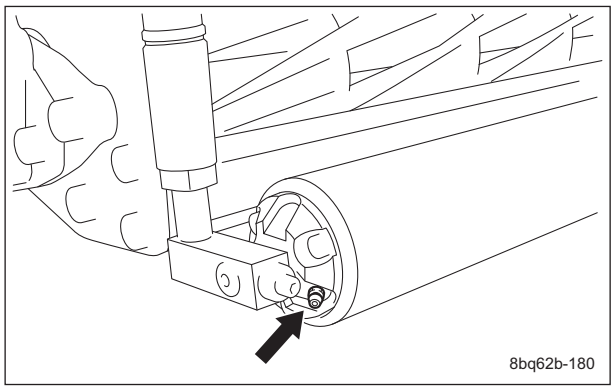
タイプ_R_012

7. リールハウジング部
   各モアユニットのリールハウジングに 1 箇所ずつあります。



タイプ_R_013

8. 後ローラー部
   各モアユニットに左右 1 箇所ずつあります。



タイプ_R_014

メンテナンス・モア

リールカッターのバックラッピング

バックラッピングとは、包丁の刃を研ぐようなもので、リールカッターとベッドナイフの刃先が丸みを帯びて切れづらくなった場合、ペースト状の研磨剤を塗って、リールカッターを逆回転させながら刃先を研ぐ作業のことです。
しかし、バックラッピングは応急処置的なもので、完全に切れ味は戻りません。
リールカッターとベッドナイフの刃先が丸みを帯びて切れ味が悪くなった場合は、以下の手順で、バックラッピングを行ってください。

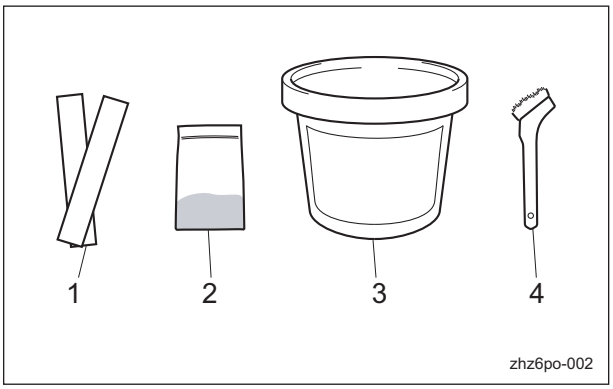
> ⚠ 注意
>
> **リールカッターとベッドナイフは共に刃物です。手足を切る恐れがありますので、取扱いには十分注意してください。**

> ⚠ 注意
>
> **バックラッピング作業は排気ガスを吸わないように注意してください。**

> ⚠ 注意
>
> **バックラッピング作業中はリールカッターが回転しています。**
> **可動部に手足を近づけないでください。**

> ⚠ 注意
>
> **二人以上でバックラッピング作業を行わないでください。**

1. 新聞紙を短冊型に裂いたもの、バックラッピングパウダーをオイルで混合した研磨剤または、ジェルコンパウンド（バロネス純正研磨剤）、ブラシを用意します。



リールカッターのバックラッピング_001

1	新聞紙
2	バックラッピングパウダー
3	ジェルコンパウンド
4	ブラシ

参考：
研磨剤の混合比は体積比で、バックラッピングパウダー 1：オイル 3 － 4 です。

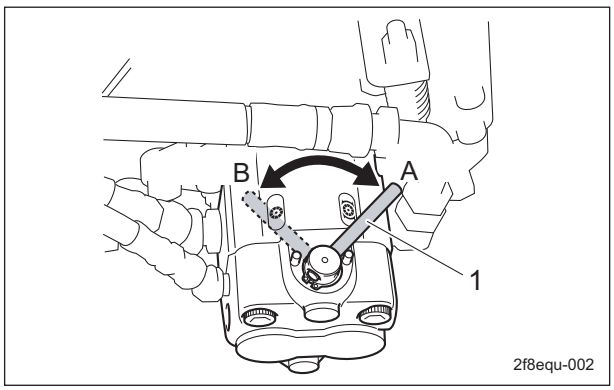
⚠ 注意

刃合わせ調整する際は、必ずモアユニットに付いているリールモータのリール回転・停止切換レバーを「停止」位置にしてください。
新聞紙で切れ味を調べる際は、必ずエンジンを停止し、手袋等で手を保護してください。
ただし、リールカッターを回す時に手袋等が巻きこまれると、手や指を切る恐れがありますので十分注意してください。

重要

切れ味は、刈込後の刃合わせ状態で調べてください。

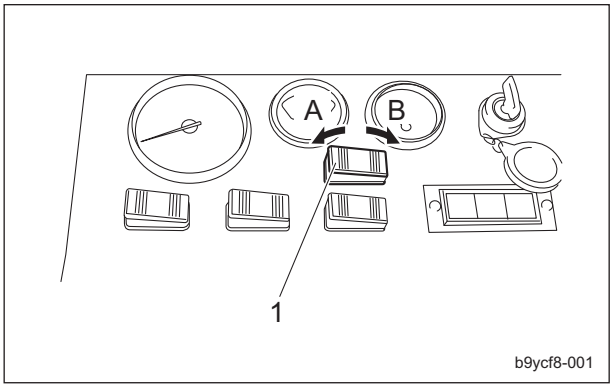
2. 短冊型に裂いた新聞紙 2 － 3 枚をリールカッターとベッドナイフの間に 90° に入れ、モアユニットを左から見てリールカッターを反時計回転に手で回して切り、切れ味を調べます。
3. リールカッターの全面（左右 3 － 4 箇所程度）にわたり、切れ味を調べます。
4. 切れ味を調べ、切れ味の良いところにチョーク等で印を付けます。
5. バックラッピングするモアユニットの油圧モータのリール回転・停止切換レバーを「回転」位置にします。
バックラッピングしないモアユニットは、「停止」にします。



リールカッターのバックラッピング_002

1	リール回転・停止切換レバー
A	回転
B	停止

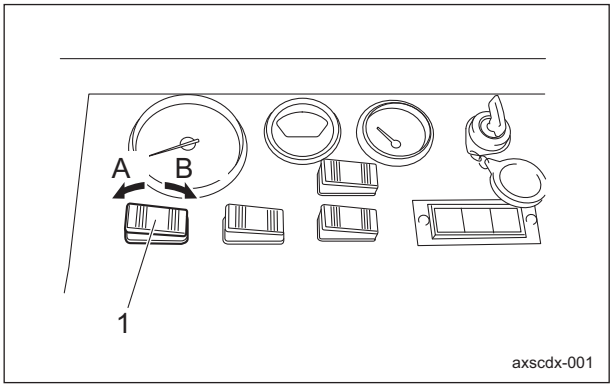
6. 運転席に着座し、駐車ブレーキをかけ、エンジンを始動させます。
参考：
リール回転スイッチが「回転」側に倒れていると、エンジンは始動しません。
7. 全てのモアユニットを地面に下ろします。
8. リール正転・逆転スイッチを「逆転」側に倒します。



リールカッターのバックラッピング_003

1	リール正転・逆転スイッチ
A	正転
B	逆転

9. エンジン回転を低速にします。
10. リール回転スイッチを「回転」側に倒し、リールカッターをバックラッピング回転させます。



リールカッターのバックラッピング_004

1	リール回転スイッチ
A	回転
B	停止

11. リール回転・停止切換レバーでリールカッターの回転速度を調整してください。

12. ブラシに研磨剤をつけ、チョークの印を目印にしてリールカッターの切れ味の良い部分の上面に均一に塗布します。(切れ味の悪い箇所には絶対に塗らないでください。)
研磨剤はバックラッピングパウダー（＃150～＃200）とオイルを1：3 － 4の割合で混合したものを使用してください。
13. しばらく回転させておき、接触音がしなくなったら、リール回転スイッチを「停止」側に倒し、リールカッターの回転を停止させます。
14. エンジンを停止します。
15. リールカッターに塗布した研磨剤を洗い流すか、ウエス等で拭取り、切れ味を調べます。
16. 手順2. － 15.の作業を繰り返し、リールカッターの全面（左右3 － 4箇所程度）が均一になるようにバックラッピングします。
17. 最後に研磨剤を、リールカッターの刃先全巾に塗って、仕上げのバックラッピングを行います。
18. リール回転スイッチを「停止」側に倒し、リール回転を停止させ、エンジンを停止し、残っている研磨剤を注意深く徹底的にきれいに洗い流してください。
19. リール正転・逆転スイッチを「正転」側に倒します。
20. リール回転・停止切換レバーを「停止」の位置に戻します。
21. 切れ味を確認しながら、刃合わせ調整を行ってください。

メンテナンス・本体

#2、#3 モアユニットの旋回

⚠ 注意

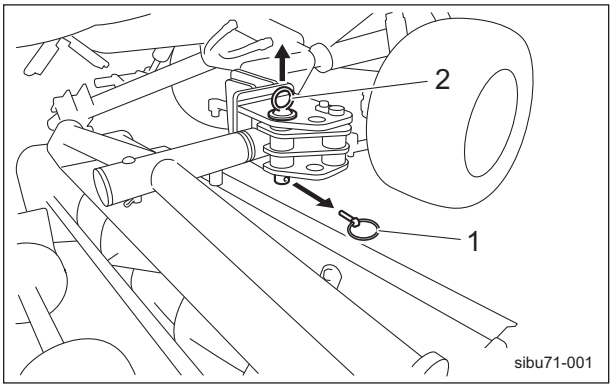
リールカッターとベッドナイフは共に刃物です。手足を切る恐れがありますので､取扱いには十分注意してください。

⚠ 注意

モアユニットの旋回を行う際は､排気ガスを吸わないように注意してください。

#2、#3 モアユニットを旋回させることにより、メンテナンスを容易に行うことができます。

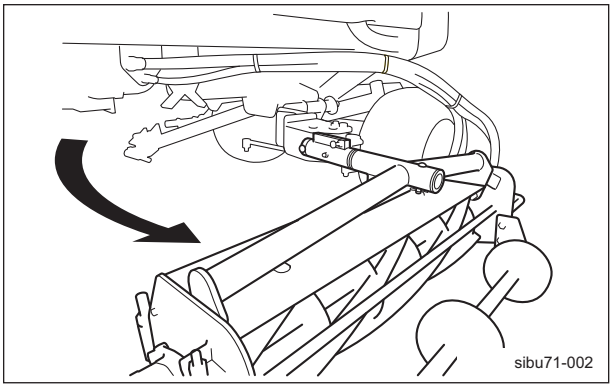
1. モアユニットを下降させ、エンジンを停止します。
2. クリップピンを外し、握り付ピンを抜きます。



#2、#3 モアユニットの旋回_001

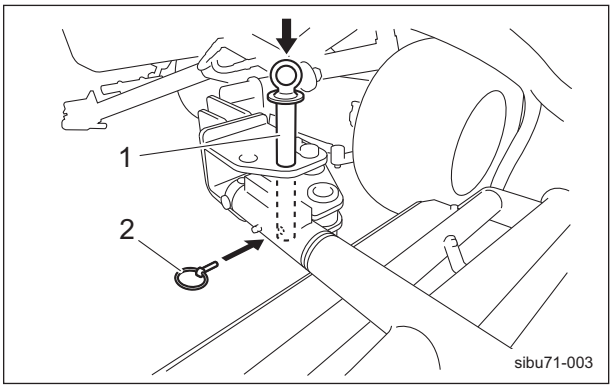
1	クリップピン
2	握り付ピン

3. モアユニットを本体外側に旋回させます。



#2、#3 モアユニットの旋回_002

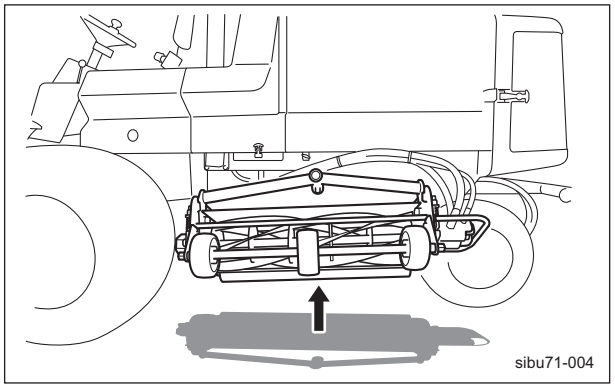
4. 握り付ピンをメンテナンス固定用の穴に完全に差込み、握り付ピンにクリップピンを取付けます。



#2、#3 モアユニットの旋回_003

1	握り付ピン
2	クリップピン

5. エンジンを始動し、モアユニットを上げます。



#2、#3 モアユニットの旋回_004

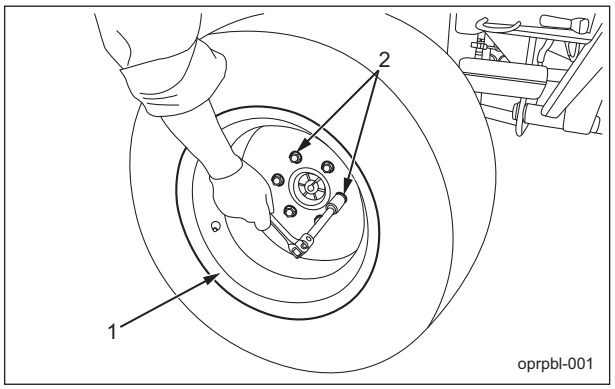
6. メンテナンス終了後は逆の手順で元の状態に戻してください。

タイヤの脱着

前輪タイヤ

前輪タイヤの取外しは、以下の手順で行います。

1. ボルトを緩めます。



前輪タイヤ_001

1	前輪タイヤ
2	調質ボルト

2. 前部左右フレーム部のジャッキアップポイントにジャッキを確実にかけ、タイヤが浮くまで上げます。(「ジャッキアップポイント」(Page 5-5)参照)
3. ボルトを取外します。
4. 取付座からタイヤを取外します。

⚠ 注意

締付けトルク一覧表を参照してください。
異常な締付け､オーバートルクでの締付け等で生じた不具合については､弊社では責任を負いかねます。

重要

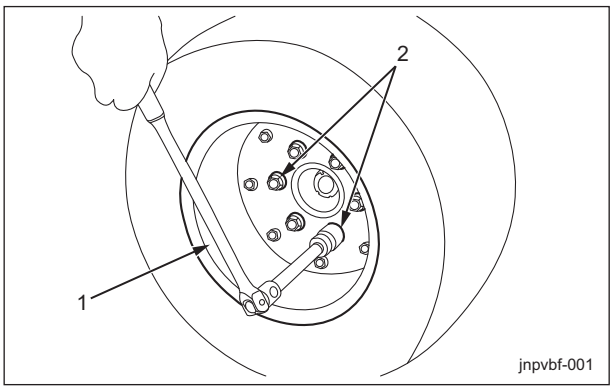
ボルトを締付ける際は、締付け順（対角）に締付けてください。

前輪タイヤの取付けは、取外し手順の逆の方法で行います。

後輪タイヤ

後輪タイヤの取外しは、以下の手順で行います。

1. ボルトを緩めます。



後輪タイヤ_001

1	後輪タイヤ
2	調質ボルト

2. 後部左右フレーム部のジャッキアップポイントにジャッキを確実にかけ、タイヤが浮くまで上げます。(「ジャッキアップポイント」(Page 5-5)参照)
3. ボルトを取外します。
4. 取付座からタイヤを取外します。

⚠ 注意

締付けトルク一覧表を参照してください。
異常な締付け､オーバートルクでの締付け等で生じた不具合については､弊社では責任を負いかねます。

重要

ボルトを締付ける際は、締付け順（対角）に締付けてください。

後輪タイヤの取付けは、取外し手順の逆の方法で行います。

ベルトの張り調整

⚠ 注意

ベルトの調整を行う際は、必ずエンジンを停止させて行ってください。

重要

ベルトの張りは、規定値を確認してください。

使用頻度により、ベルトが緩いと踊ったり、スリップする可能性があります。
また、張り過ぎると損傷が早くなる可能性があります。
必要に応じて調整し、いつも適切な張り具合に保ってください。

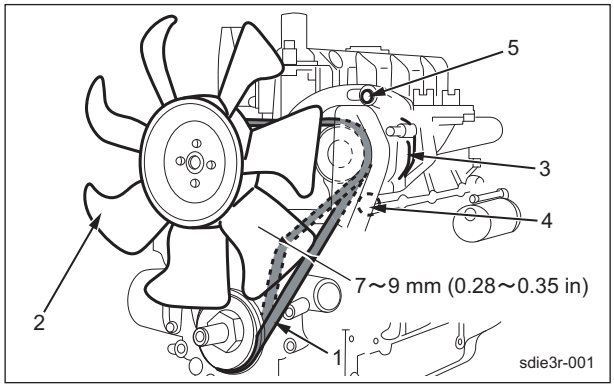
ファンベルト

⚠ 注意

ベルトの調整を行う際は、必ずエンジンを停止させて行ってください。

エンジンの取扱いについては、エンジンの取扱説明書を参照してください。

1. ベルトの中央部を指で押さえて、張り具合を確認してください。
2. ベルトがたわみすぎている場合は、オルタネータを取付けているボルト A、ボルト B を緩め、オルタネータを動かして調整してください。



ファンベルト_001

1	ファンベルト
2	ブレード
3	オルタネータ
4	ボルト A
5	ボルト B

ブレーキの調整

⚠ 危険

ブレーキワイヤに亀裂、破損がないことを確認してください。

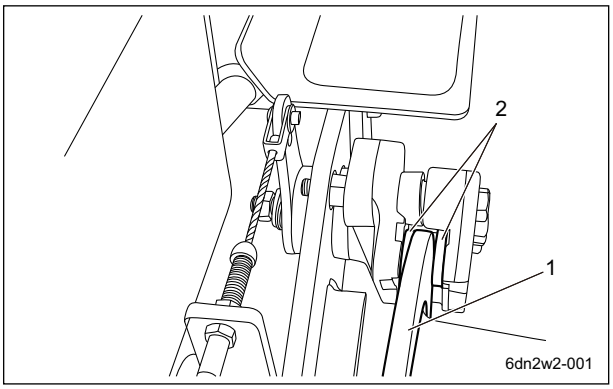
重要

ブレーキディスクとパットの隙間が大きくなり、ブレーキの効きが悪くなってきたら隙間調整をしてください。
ワイヤは微調整に使用します。

重要

ブレーキの調整は、ライニングパットで行ってください。

ライニングパットの摩耗限界は、3.0 mm（0.12 in）です。



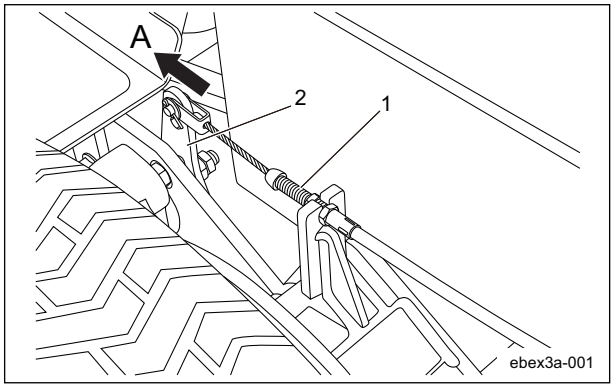
ブレーキの調整_001

1	ディスク
2	ライニングパット

⚠ 注意

レバーが開放位置（ニュートラル）に保持されていることを必ず確認してください。

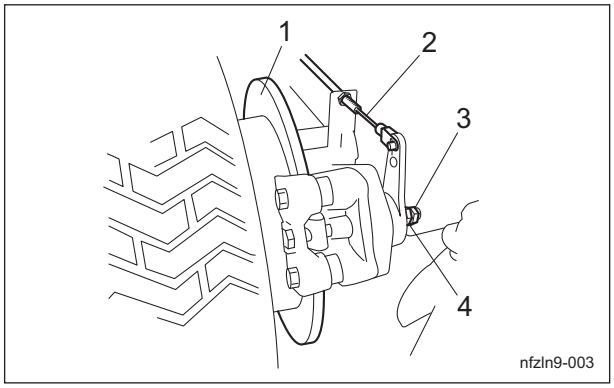
1. 両輪のブレーキディスク側のアジャスタボルトのねじを奥まで締めてください。



ブレーキの調整_002

1	アジャスタボルト（ブレーキディスク側）
2	レバー
A	開放（ニュートラル）

2. 調整はロックナットを緩め、調節ナットを締込んでいくと隙間が小さくなります。
   調節ナットをディスク摩擦面に摩擦材が接触するまで締込んでください。



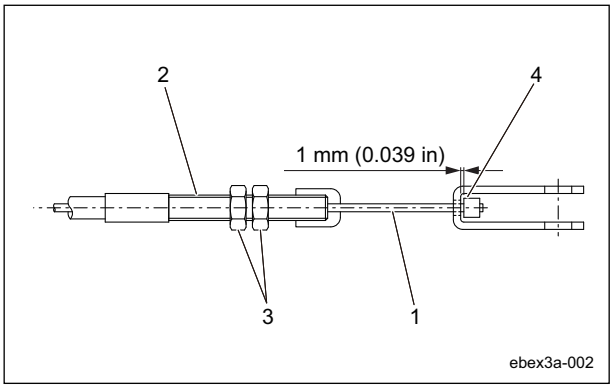
ブレーキの調整_003

1	ブレーキディスク
2	ワイヤ
3	ロックナット
4	調節ナット

⚠ 危険

隙間が小さすぎると発熱し火災の原因になります。

3. 調節ナットを緩め、0.2 mm（0.0079 in）程度の適正な隙間に調整し、ディスクが自由に回転することを確認してください。
4. ロック用ナットを締込み、調節ナットを保持した状態で確実にロック用ナットを締めてください。
5. ブレーキペダルを踏んでいない状態で、ペダルとインナワイヤの接合部で 1.0 mm（0.039 in）の遊びをつくってください。



ブレーキの調整_004

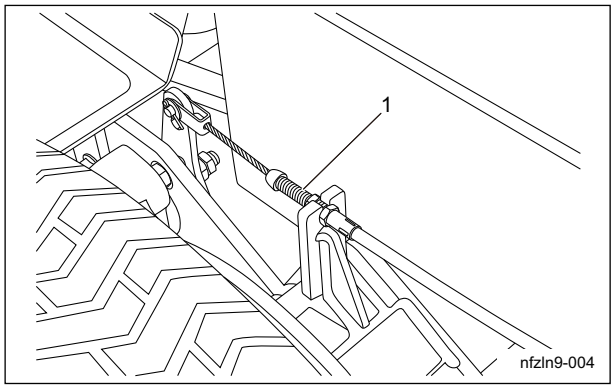
1	インナワイヤ
2	アジャスタボルト
3	ブレーキワイヤ（アウタ）
4	接合部

6. アジャスタボルトをスパナで緩め、調整した後、締付けてください。
7. エンジンを始動し、走行して以下の確認を行ってください。
   - ブレーキ部が発熱していないことを確認してください。
   - 左右のブレーキの効きが等しいことを確認してください。

⚠ 危険

左右のブレーキの効きが違うと、思わぬ事故をおこす恐れがあり大変危険です。

8. 左右のブレーキの効きが違う場合は、ブレーキワイヤのアジャスタボルトで微調整してください。



ブレーキの調整_005

1	アジャスタボルト（ブレーキディスク側）

ブレーキの慣らし方法

ブレーキシュまたは、ブレーキパットが消耗した場合は新品に交換してください。
交換直後、ブレーキの効きが弱い場合は、ブレーキの慣らし運転をしてください。
走行しながら、軽くブレーキ操作を行い、当たり面をすり合わせてください。

ピストンポンプの中立位置の調整

⚠ 注意

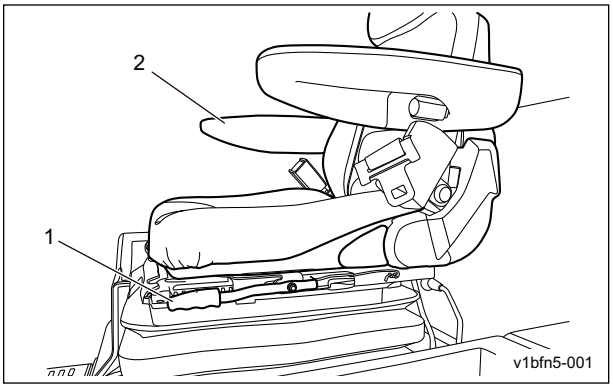
回転するタイヤに触れないように注意してください。

⚠ 注意

中立位置の調整を行う際は、本機が動き出す恐れがあります。
ジャッキアップポイントに確実にジャッキをかけ、すべてのタイヤが地上から離れるまで本機をジャッキアップしてください。

走行ペダルを踏んでいない状態で前進または後進する場合は、中立が出ていません。
以下の要領で調整してください。

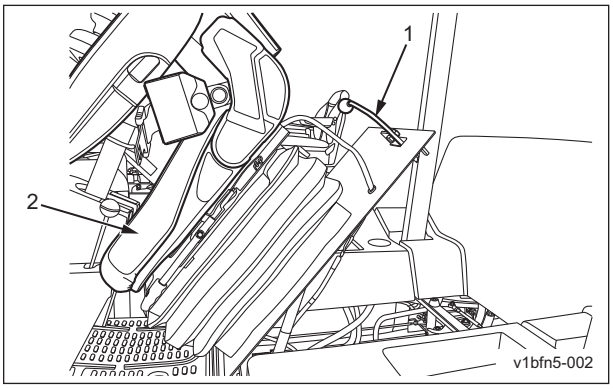
1. エンジンを停止します。
2. ジャッキアップポイントに確実にジャッキをかけ、本機をジャッキアップします。
3. ジャッキスタンドとタイヤが接触していないことを確認してください。
4. シートハンドルを引き、シートを後方いっぱいまでスライドさせます。



ピストンポンプの中立位置の調整_001

1	シートハンドル
2	シート

5. シートレバーを引きながら、シートを上げます。



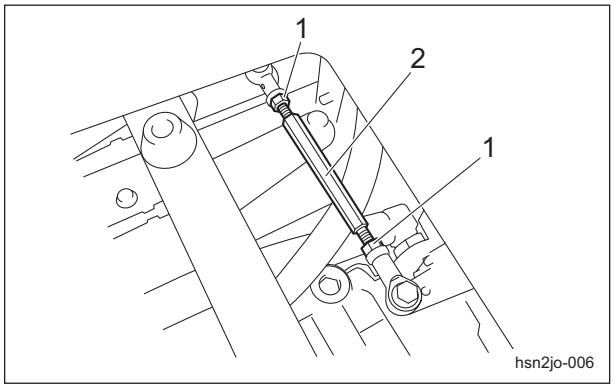
ピストンポンプの中立位置の調整_002

1	シートレバー
2	シート

6. エンジンを始動し、エンジン回転数を最高回転にします。
7. 2WD - 4WD 切換スイッチを「2WD」側にします。
8. 中立位置を調整します。

〔1〕前輪タイヤが前進方向に回転する場合は、ロックナットを緩め、中立調節ロッドを縮める方向に回します。

〔2〕前輪タイヤが後進方向に回転する場合は、ロックナットを緩め、中立調節ロッドを伸ばす方向に回します。



ピストンポンプの中立位置の調整_003

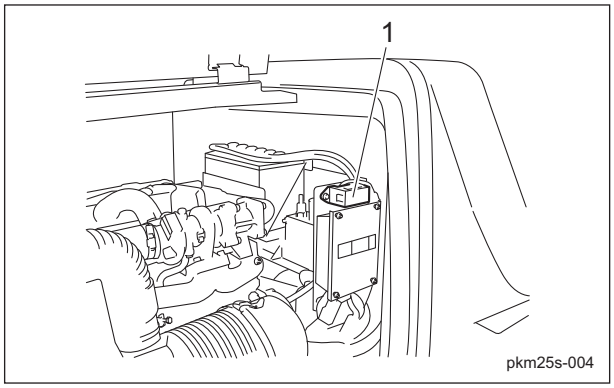
1	ロックナット
2	中立調節ロッド

9. 前輪が止まる位置を見つけ、ロックナットで固定します。

ヒューズの交換

ヒューズボックス

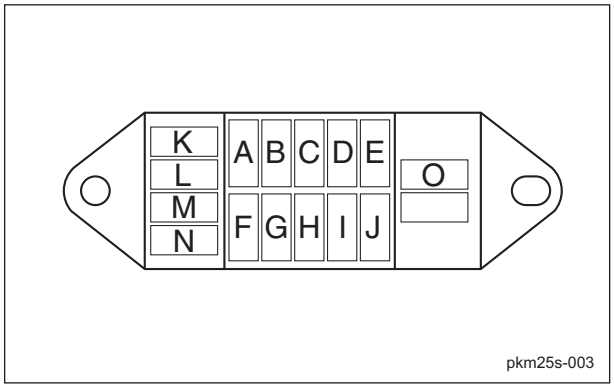
ヒューズボックス内にスペアヒューズ、交換工具が付属されています。



ヒューズボックス_001

1	ヒューズボックス

ヒューズは、自動車ミニヒューズです。
規定容量のものと交換してください。

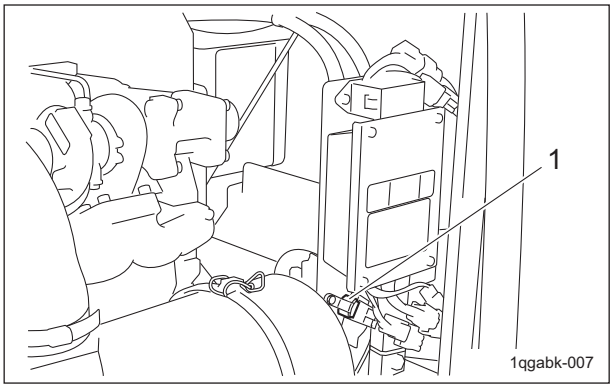


ヒューズボックス_002

A	5 A	タイマ
B	5 A	サーモスタートランプ
C	5 A	タコメータ、燃料計、水温計、チャージランプ、オイルプレッシャ（エンジン油圧）ランプ、水温ブザー、作動油ブザー
D	15 A	リレーボックス 1、デフロック、#3 近接スイッチ、リール正転・逆転スイッチ
E	15 A	リレーボックス 2、2WD/4WD 切替、#4/#5 近接 SW
F	-	-
G	5 A	タイマ
H	5 A	オルタネータ
I	5 A	燃料ポンプ、セーフティリレー、停止ソレノイド
J	5 A	リレー（セルモータ）
K	5 A	スペア
L	5 A	
M	15 A	
N	15 A	
O	ヒューズ抜き用工具	

ヒュージブルリンク

ヒュージブルリンクのヒューズ容量は、50 A です。



ヒュージブルリンク_001

1	ヒュージブルリンク

長期保管

長期保管について

- 泥や草屑、油汚れ等をきれいに落としてください。
- 各注油箇所にグリース注入、塗布と、注油をしてください。
- バッテリを取外してください。

BARONESS®

Quality on Demand

株式会社 共栄社

〒442-8530
愛知県豊川市美幸町1-26

TEL (0533) 84-1221
FAX (0533) 84-1220

LM3200--UM--JPZ/14E-00-S.K